

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要 (詳細は右表を参照)

<USDA の見通し> 2024/25 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・ウルグアイ等で下方修正されたものの、シリア、パキスタン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

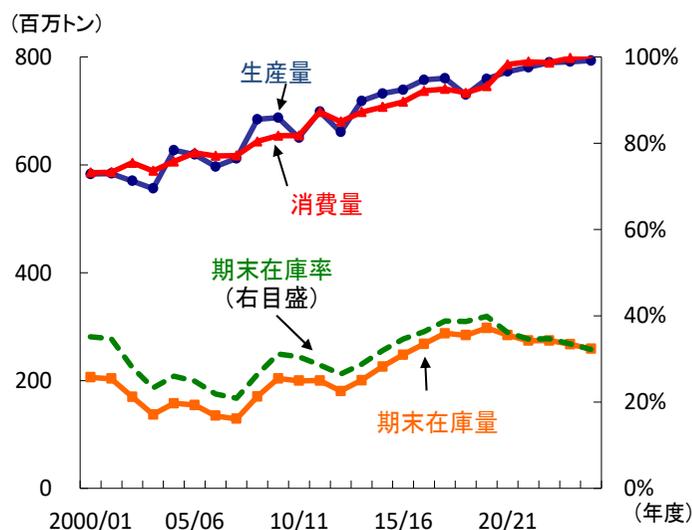
消費量 前年度比 前月比

- ・ウクライナ等で上方修正されたものの、トルコ等で下方修正され、前月から下方修正された。

輸出量 前年度比 前月比

- ・ロシア、ウクライナ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料:USDA「PS&D」(2025. 1. 10) をもとに農林水産省にて作成

◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	789.9	791.0	793.2	0.3	0.3
消費量	789.6	797.8	801.9	▲ 0.6	0.5
うち飼料用	152.8	159.2	152.7	0.1	▲ 4.1
輸出量	221.8	221.2	212.0	▲ 1.7	▲ 4.2
輸入量	213.3	221.8	208.5	▲ 1.1	▲ 6.0
期末在庫量	274.3	267.5	258.8	0.9	▲ 3.2
期末在庫率	34.7%	33.5%	32.3%	0.1	▲ 1.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (10 January 2025)

○ 2024/25年度の世界の小麦の生産量(793.2百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸出量(212.0百万トン)(単位: %)



○ 2024/25年度の世界の小麦の輸入量(208.5百万トン)(単位: %)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 2025/26 年度の冬小麦の作付面積は前年度から 2.2%増加の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 53.7 百万トンと、収穫面積及び単収が前年度より増加することから前年度と比べ 9.3%増、過去 5 年平均（48.2 百万トン）と比べても 11.4%増となる見込み。品種別には、ハード・レッド・ウインター（HRW）が 21.0 百万トン（前年度比 29.3%増）、ハード・レッド・スプリング（HRS）が 13.7 百万トン（同 8.0%増）、ホワイト小麦（WW）が 7.5 百万トン（同 17.7%増）、デュラム小麦（Durum）が 2.2 百万トン（同 34.9%増）と、前年度と比べ増加する一方で、ソフト・レッド・ウインター（SRW）は前作物のとうもろこし及び大豆の収穫が遅れ作付面積が減少したこと等を受け 9.3 百万トン（同 23.7%減）となる見込み。

同「Wheat Outlook」（2025.1.14）によれば、2025/26 年度の冬小麦の作付面積は 1,381 万ヘクタールと、カンザス州、オクラホマ州等で減少するものの、テキサス州、モンタナ州、ワシントン州等で増加することから、前年度（1,351 万ヘクタール）と比べ 2.2%増となる見込み。冬小麦の作付面積は、長期的にはとうもろこし及び大豆への作付けシフトから減少すると見込まれているものの、2020/21 年度に史上最低を記録後、わずかに回復した。2022 年後半に小麦の価格が上昇したことで 2023/24 年度の冬小麦の作付面積は増加したものの、2023 年の価格低下により 2024/25 年度の冬小麦の作付面積は再び減少していた。

同「Winter Wheat and Canola Seedings」（2025.1.10）によれば、2025/26 年度の冬小麦の品種別作付面積は、HRW が 971 万ヘクタールと前年度と比べ 1%増、SRW が 261 万ヘクタールと同 6%増、WW が 147 万ヘクタールと同 3%増となる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 23.1 百万トンと、増産による輸出余力の増加に加え、EU、ロシア及びウクライナの輸出余力の減少等を受け、前年度と比べ 20.2%増、過去 5 年平均（23.0 百万トン）と比べても 0.5%増と 4 年ぶりの高水準となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 6 月～11 月の輸出量は、1,115.6 万トンと前年同期（832.8 万トン）と比べ 34.0%増となっており、国別にはメキシコ 178.9 万トン（16.0%）、フィリピン 132.0 万トン（11.8%）、日本 125.7 万トン（11.3%）の順。

2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引上げを受け前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 21.7 百万トンと、前年度と比べ 14.6%増となる見込み。

小麦一米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

（単位：百万トン）

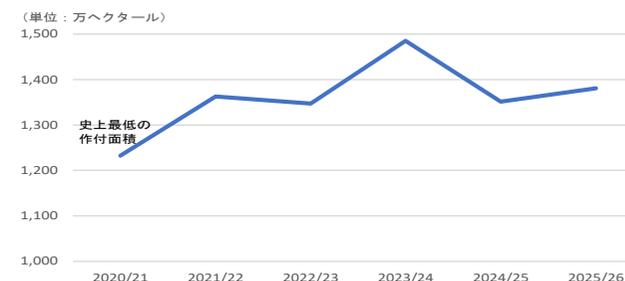
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年6月～25年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.1	53.7	-	9.3
消費量	30.3	30.2	31.3	0.1	3.8
うち飼料用	2.0	2.3	3.3	-	41.6
輸 出 量	20.7	19.2	23.1	-	20.2
輸 入 量	3.3	3.8	3.5	0.1	▲ 5.9
期末在庫量	15.5	19.0	21.7	0.1	14.6
期末在庫率	30.4%	38.4%	39.9%	0.1	1.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	14.36	15.01	15.57	-	3.7
単収(t/ha)	3.13	3.27	3.45	-	5.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 January 2025)

図 冬小麦の作付面積の推移



資料：USDA 「Winter Wheat and Canola Seedings」(2025.1.10)をもとに農林水産省で作成

表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量：万トン、シェア：%)

国 名	2024/25年度 (2024年6月～11月)		2023/24年度 (2023年6月～2024年5月)		2022/23年度 (2022年6月～2023年5月)			
	輸出量	シェア	輸出量	シェア	輸出量	シェア		
メキシコ	178.9	16.0	メキシコ	325.8	17.4	メキシコ	365.4	18.0
フィリピン	132.0	11.8	フィリピン	274.5	14.7	フィリピン	206.1	10.2
日本	125.7	11.3	中国	216.9	11.6	日本	204.1	10.1
韓国	106.8	9.6	日本	197.1	10.5	韓国	147.2	7.3
台湾	59.0	5.3	韓国	130.1	6.9	中国	120.6	6.0
タイ	39.3	3.5	台湾	110.5	5.9	ナイジェリア	81.9	4.0
その他	474.0	42.5	その他	618.1	33.0	その他	901.7	44.5
計	1,115.6	100.0	計	1,873.0	100.0	計	2,027.0	100.0

資料：USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省で作成

< カナダ > 2025/26 年度の作付面積は前年度から 1.8%増加の見込み (AAFC)

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省 (AAFC) 「Outlook for Principal Field Crops」(2025.1.20) によれば、2024/25 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく 35.0 百万トンと、干ばつの影響により減産となった前年度 (32.9 百万トン) に比べ 6.1%増、過去 5 年平均 (31.7 百万トン) と比べても 10.4%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 29.1 百万トンと、前年度 (28.9 百万トン) と比べ 0.8%増、過去 5 年平均 (26.8 百万トン) と比べても 8.7%増となり、史上最高の生産量となった 2013/14 年度に次ぐ史上 2 番目の生産量になる見込み。デュラム小麦も 5.9 百万トンと、前年度 (4.1 百万トン) と比べ 43.6%増、過去 5 年平均 (4.9 百万トン) と比べても 19.8%増となる見込み。

カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2024」(2024.12.5) によれば、2024/25 年度の春小麦の生産量は 26.1 百万トンと、収穫面積が減少したものの単収が増加したことから前年度 (25.5 百万トン) と比べ 2.2%増となる見込み。

AAFC によれば、2025/26 年度の小麦の作付面積は 11.03 百万ヘクタールと前年度 (10.84 百万ヘクタール) と比べ 1.8%増加する見込み。種類別には、普通小麦が 8.58 百万ヘクタールと前年度 (8.26 百万ヘクタール) と比べ 3.8%増となる一方で、デュラム小麦が 2.45 百万ヘクタールと前年度 (2.58 百万ヘクタール) と比べ 4.8%減となる見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 26.2 百万トンと、前年度 (25.3 百万トン) と比べ 3.2%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 21.3 百万トンと、増産となるものの、低品質な小麦が増加し飼料用消費量が増加すること等から前年度 (21.8 百万トン) と比べ 2.4%減となる見込み。デュラム小麦は 4.9 百万トンと、生産量の回復による輸出余力の増加等を受け、前年度 (3.6 百万トン) と比べ 37.7%増となる見込み。カナダ穀物委員会 (CGC) によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月～11 月の輸出量は、817.9 万トンと前年同期 (823.4 万トン) と比べ 0.7%減。種類別には、普通小麦が 674.3 万トンと前年同期 (724.4 万トン) と比べ 6.9%減で、国別には日本 74.9 万トン (11.1%)、インドネシア 71.8 万トン (10.7%)、ペルー 55.7 万トン (8.3%) の順。デュラム小麦は 143.6 万トンと前年同期 (99.1 万トン) と比べ 44.9%増で、国別にはイタリア 37.1 万トン (25.9%)、モロッコ 29.3 万トン (20.4%)、アルジェリア 15.6 万トン (10.9%) の順。

AAFC によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく 4.5 百万トンと、前年度と比べ 3.6%減となる見込み。

小麦—カナダ (春小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月～25年7月)		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	34.8	33.0	35.0 (35.0)	-	6.1
消費量	8.3	9.1	9.6 (9.1)	-	5.7
うち飼料用	3.2	4.0	4.5 (4.7)	-	13.1
輸出量	25.6	25.4	26.0 (26.2)	-	2.2
輸入量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	▲ 1.8
期末在庫量	5.6	4.6	4.5 (4.5)	0.1	▲ 2.2
期末在庫率	16.6%	13.4%	12.7% (12.6%)	0.3	▲ 0.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.10	10.70	10.65 (10.65)	-	▲ 0.5
単収(t/ha)	3.45	3.08	3.28 (3.28)	-	6.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 January 2025)

図 カナダ産小麦の種類別生産量の推移



資料: カナダ統計局のデータをもとに農林水産省で作成

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

○普通小麦 (輸出量: 万トン)

2024/25年度 (2024年8月～11月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
日本	74.9	11.1%	中国	310.3	14.7%	中国	296.8	15.1%
インドネシア	71.8	10.7%	インドネシア	251.9	11.9%	インドネシア	213.8	10.9%
ペルー	55.7	8.3%	日本	173.9	8.2%	日本	167.3	8.5%
コロンビア	46.2	6.8%	バングラデシュ	172.7	8.2%	ペルー	148.3	7.5%
エチオピア	32.4	4.8%	ペルー	137.3	6.5%	バングラデシュ	144.4	7.3%
その他	393.3	58.3%	その他	1,069.2	50.5%	その他	996.1	50.7%
計	674.3	100.0%	計	2,115.3	100.0%	計	1,966.6	100.0%

○デュラム小麦 (輸出量: 万トン)

2024/25年度 (2024年8月～11月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年7月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
イタリア	37.1	25.9%	アルジェリア	89.3	26.0%	イタリア	121.0	23.8%
モロッコ	29.3	20.4%	モロッコ	81.7	23.8%	アルジェリア	120.8	23.8%
アルジェリア	15.6	10.9%	米国	46.2	13.5%	モロッコ	85.7	16.9%
米国	14.2	9.9%	イタリア	44.7	13.0%	米国	50.4	9.9%
スペイン	9.4	6.5%	日本	21.2	6.2%	チュニジア	32.5	6.4%
その他	38.0	26.4%	その他	60.4	17.6%	その他	96.8	19.1%
計	143.6	100.0%	計	343.5	100.0%	計	507.3	100.0%

資料: カナダ穀物委員会のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2024/25 年度の輸出量は前年度から増加し 21.9 百万トンの見込み (ABARES)

【生育・生産状況】豪州農業資源経済科学局 (ABARES) 「Australian Crop Report」(2024.12.3) によれば、2024/25 年度の生産量は前回予測 (2024.9.3) から 6 万トン上方修正され 31.9 百万トンと、前年度 (26.0 百万トン) と比べ 22.8%増、過去 5 年平均 (29.8 百万トン) と比べても 6.9%増となる見込み。州別の生産量は、ニューサウスウェールズ州 (NSW 州) が 12.4 百万トン (前年度比 74.8%増)、クイーンズランド州 (QLD 州) が 2.2 百万トン (同 106.5%増) とシーズンを通して十分な降雨に恵まれたことから前年度に比べ大きく増加する見込み。また、ウェスタンオーストラリア州 (WA 州) についても 10.8 百万トン (同 39.6%増) と生育後期の降雨により前年度から増加する見込み。一方、サウスオーストラリア州 (SA 州) は 3.0 百万トン (同 37.5%減)、ビクトリア州 (VIC 州) も 3.5 百万トン (同 33.7%減) とシーズンを通して降水量が少なかったことや 9 月に霜が降りた影響等により前年度から減少する見込み。

西豪州穀物産業協会 (GIWA) 「Crop Report」(2024.12.13) によれば、WA 州の 2024/25 年度の実生産量は、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 10.83 百万トンとなる見込み。WA 州全体では非常に降雨量が少なかったものの、適時の降雨と冬の気候が温暖であったこと、病害が少なかったこと等により穀物の生産量は予想を上回る量となった。

現地情報会社によれば、1 月 5 日現在、2024/25 年度の実生産量は 96%となっている。

【貿易情報・その他】ABARES (2024.12.3) によれば、2024/25 年度の輸出量は前回予測から 16 万トン上方修正され 21.9 百万トンと、前年度 (19.8 百万トン) と比べ 11.0%増となるものの、過去 5 年平均 (22.4 百万トン) と比べると 1.9%減となる見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～11 月の輸出量は 171.8 万トンと、輸出余力の減少を受け前年同期 (254.1 万トン) と比べ 32.4%減となっている。国別には、インドネシア 37.0 万トン (21.5%)、フィリピン 34.3 万トン (20.0%)、韓国 19.4 万トン (11.3%) の順。

2024/25 年度の期末在庫量は輸出量の上方修正等を受け前回予測から 7.2 万トン下方修正され 4.0 百万トンとなるものの、前年度 (2.8 百万トン) に比べ 43.8%増となる見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、期首在庫量の引上げを受け前月予測から 3 万トン上方修正され 2.6 百万トンとなるものの、輸出量の増加等を受け前年度に比べ 10.3%減となる見込み。

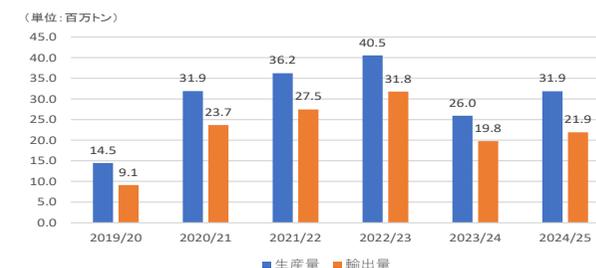
小麦一豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (2024年10月～25年9月)		
			予測値、() はABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	40.6	26.0	32.0 (31.9)	-	23.3
消費量	8.0	7.8	7.5 (8.7)	-	▲ 3.8
うち飼料用	4.5	4.3	4.0	...	▲ 7.0
輸出量	31.8	19.8	25.0 (21.9)	-	26.0
輸入量	0.2	0.2	0.2	...	▲ 9.1
期末在庫量	4.4	2.9	2.6 (4.0)	0.03	▲ 10.3
期末在庫率	11.0%	10.5%	8.0% (13.2%)	0.1	▲ 2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	13.05	12.37	13.00 (13.06)	-	5.1
単収(t/ha)	3.11	2.10	2.46 (2.44)	-	17.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
ABARES 「Australian Crop Report」(3 December 2024)

図 豪州の小麦の生産量・輸出量の推移



資料: ABARES「Australian Crop Report」(2024.12.3) をもとに農林水産省で作成

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量:万トン、シェア:%)

2024/25年度 (2024年10月～11月)		2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)		2022/23年度 (2022年10月～2023年9月)				
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア			
インドネシア	37.0	21.5	中国	375.5	19.0	中国	759.2	23.9
フィリピン	34.3	20.0	インドネシア	323.5	16.4	インドネシア	502.9	15.8
韓国	19.4	11.3	フィリピン	233.6	11.8	フィリピン	307.6	9.7
ベトナム	14.2	8.3	イエメン	152.2	7.7	ベトナム	285.5	9.0
日本	12.8	7.4	日本	120.6	6.1	韓国	270.0	8.5
マレーシア	6.8	4.0	韓国	119.4	6.1	タイ	199.2	6.3
その他	47.4	27.6	その他	648.5	32.9	その他	855.7	26.9
計	171.8	100.0	計	1,973.3	100.0	計	3,180.0	100.0

資料: ABARES 「Trade dashboard」 をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2024/25年度の生産量は前月から下方修正され119.1百万トンの見込み (EC)

【生育・生産状況】欧州委員会 (EC) 「EU Cereals Balance Sheets」 (2024.12.19) によれば、2024/25年度の生産量は、収穫面積の引下げを受け、前月予測から0.4百万トン下方修正され119.1百万トンとなる見込み。2023年秋の多雨で冬小麦の作付けが困難となったほか、生育期間を通じた降雨過多等により収穫面積及び単収が減少することを受け、前年度 (132.6百万トン) と比べ10.2%減、過去5年平均 (133.4百万トン) と比べても10.7%減となる見込み。このうち、普通小麦は前月予測から0.4百万トン下方修正され111.9百万トンと、前年度比10.6%減、過去5年平均比でも11.1%減となる見込み。国別にはフランスが降雨過多等を受け前年度比27.2%減の25.4百万トン、ドイツも同13.8%減の18.2百万トンとなる見込み。デュラム小麦は前月予測からわずかに上方修正され7.2百万トンとなるものの、前年度比2.7%減、過去5年平均比でも4.3%減となる見込み。国別にはイタリアが同5.1%減の3.5百万トン、フランスも同6.5%減の1.2百万トンとなる一方、スペインが干ばつからの回復により前年度比64.8%増の0.7百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】ECによれば、2024/25年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく25.7百万トンと、減産を受け前年度 (36.4百万トン) と比べ29.3%減となる見込み。2024/25年度のうち2024年7月～10月の輸出量は、995.5万トンと、前年同期 (1,231.6万トン) と比べ19.2%減。種類別には、普通小麦が970.1万トンと、前年度と比べ20.3%減となるものの、デュラム小麦は25.3万トンと、同83.4%増。一方で、USDA 「Grain: World Markets and Trade」 (2025.1.10) によれば、ロシアは2024/25年度後半の穀物輸出枠を過去5年間では最小となる1,060万トンに設定した (詳細は小麦の「ロシア」参照。)。ロシア産小麦の主要輸入国であるエジプト、トルコ、バングラデシュ等はEUなど他の小麦輸出国に頼らざるを得ず、供給量は限られるものの、EUの輸出が上向き可能性もある。

2024/25年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく10.0百万トンと、ウクライナの減産で同国からの輸入が減少すること等から前年度 (12.1百万トン) と比べ17.2%減となる見込み。2024/25年度のうち2024年7月～10月の輸入量は、369.3万トンと、前年同期 (429.8万トン) と比べ14.1%減。種類別には、普通小麦が330.8万トンと、前年度と比べ6.4%増となる一方、デュラム小麦が38.6万トンと、同67.6%減。

2024/25年度の期末在庫量は、減産等を受け前月予測から0.4百万トン下方修正され10.7百万トンと、供給量の減少から前年度 (17.9百万トン) と比べ40.5%減となる見込み。USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、期首在庫量の引上げを受け前月予測から3万トン上方修正され10.6百万トンとなるものの、生産量の減少等を受け前年度に比べ31.9%減となる見込み。

小麦－EU27 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、() はEC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	134.5	135.1	121.3 (119.1)	-	▲ 10.2
消費量	109.0	110.5	108.8 (110.6)	-	▲ 1.6
うち飼料用	45.0	46.5	44.5 (45.8)	-	▲ 4.3
輸出量	35.1	38.0	29.0 (25.7)	-	▲ 23.6
輸入量	12.2	12.7	11.5 (10.0)	-	▲ 9.1
期末在庫量	16.3	15.5	10.6 (10.7)	0.03	▲ 31.9
期末在庫率	11.3%	10.5%	7.7% (7.8%)	0.02	▲ 2.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	24.44	24.34	22.83 (22.32)	-	▲ 6.2
単収(t/ha)	5.50	5.55	5.31 (5.34)	-	▲ 4.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (10 January 2025)、
EC 「EU Cereals Balance Sheets」 (19 December 2024)

図 EU27の小麦生産量の推移



資料: EC 「EU cereals production, area and yield」 (2024. 12. 19) をもとに農林水産省で作成

表 EU27の小麦の輸出量及び輸入量

O輸出量				O輸入量					
国名	2024/25年度 (2024年7月～10月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		国名	2024/25年度 (2024年7月～10月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
	輸出量 (万トン)	シェア (%)	輸出量 (万トン)	シェア (%)		輸入量 (万トン)	シェア (%)	輸入量 (万トン)	シェア (%)
ナイジェリア	123.2	12.4	348.9	9.6	ウクライナ	219.9	59.5	648.7	53.6
アルジェリア	108.7	10.9	393.7	10.8	カナダ	42.1	11.4	138.5	11.4
エジプト	99.3	10.0	178.5	4.9	モルドバ	28.2	7.6	73.6	6.1
モロッコ	68.2	6.8	489.1	13.4	米国	25.7	7.0	34.2	2.8
英国	63.1	6.3	140.0	3.8	トルコ	18.2	4.9	76.8	6.3
サウジアラビア	41.7	4.2	155.4	4.3	英国	14.2	3.9	52.4	4.3
その他	491.3	49.4	1,934.0	53.1	その他	21.0	5.7	187.1	15.4
合計	995.5	100.0	3,639.6	100.0	合計	369.3	100.0	1,211.2	100.0

資料: EC 「EU trade for cereals」 (2024. 12. 19) をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2024/25 年度の輸出量は前月から下方修正され 46.0 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量（クリミア地域分を含まず）は、前月予測からの変更なく 81.5 百万トンと、前年度と比べ 10.9%減、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べても 2.4%減となる見込み。種類別には、冬小麦が 57.5 百万トンと、前年度（64.0 百万トン）に比べ 10.2%減。春小麦も 24.0 百万トンと、前年度（27.5 百万トン）に比べ 12.7%減となる見込み。

ロシア連邦統計庁（2024.12.25）によれば、2024/25 年度の小麦の生産量は 8,242 万トンと、前年度（9,285 万トン）と比べ 11.2%減、過去 5 年平均（8,670 万トン）と比べても 4.9%減となる見込み。ロシア気象センターによれば、12 月の気温はロシア全域で平年より 2～4℃高かった。中・下旬には寒波が到来したものの、越冬中の 2025/26 年度の冬小麦を含む秋播き作物に影響はなかった。

【貿易情報・その他】ロシア連邦政府は、2024 年 12 月 20 日、2024/25 年度後半（2025 年 2 月 15 日～6 月 30 日）に小麦及びメスリンに設定される輸出枠を 1,060 万トン（前年度 2,900 万トン）とすることを発表した。当該枠外の輸出については、50%（ただし最低の輸出関税は 100 ユーロ/トン）の輸出関税が課されることとなる。USDA 「Grain: World Markets and Trade」(2025.1.10) によれば、ロシアは、2024/25 年度の供給量が大きく減少しているにもかかわらず、2024/25 年度前半（2024 年 7 月～12 月）で 29.4 百万トンを輸出しており、史上最高の輸出量となった前年度同期（27.7 百万トン）を上回っている。12 月 1 日現在のロシアの農場の小麦在庫は前年比 25%減となっており、ロシア連邦政府は、ロシア国内への供給を維持し、食料品価格の上昇を抑制するため、2024/25 年度後半の輸出枠を 1,060 万トンに設定した。当該穀物輸出枠は過去 5 年間で最小であり、2025 年 2 月以降、ロシアの輸出は減速する見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、輸出ペースの鈍化及び年度後半の輸出枠の設定を受け前月予測から 1.0 百万トン下方修正され 46.0 百万トンと、史上最高の輸出量となった前年度と比べ 17.1%減となるものの、過去 5 年平均（42.4 百万トン）と比べれば 8.4%増と史上 3 番目の輸出量となる見込み。

現地情報会社によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～12 月の輸出量は 2,854.0 万トンと、前年同期（2,715.6 万トン）と比べ 5.1%増となっている。国別には、エジプト 527.7 万トン（18.5%）、バングラデシュ 219.5 万トン（7.7%）、トルコ 191.8 万トン（6.7%）の順。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸出量の引下げを受け前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 9.2 百万トンとなるものの、前年度に比べ 21.0%減となる見込み。

小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

(単位：百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	92.0	91.5	81.5 (81.8)	-	▲ 10.9
消費量	41.0	39.0	38.3 (39.0)	-	▲ 1.9
うち飼料用	18.0	16.0	15.5 (16.0)	-	▲ 3.1
輸出量	49.0	55.5	46.0 (44.2)	▲ 1.0	▲ 17.1
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.1)	-	-
期末在庫量	14.4	11.7	9.2 (9.5)	1.0	▲ 21.0
期末在庫率	16.0%	12.4%	11.0% (11.4%)	1.3	▲ 1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.00	28.83	28.00 (27.73)	-	▲ 2.9
単収(t/ha)	3.17	3.17	2.91 (2.95)	-	▲ 8.2
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(10 January 2025) IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)					

図 ロシアの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2025.1.10)をもとに農林水産省で作成

表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量：万トン、シェア：%)

2024/25年度 (2024年12月)			2024/25年度 (2024年7月～12月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
エジプト	60.3	16.0	エジプト	527.7	18.5	エジプト	868.3	16.0
バングラデシュ	55.1	14.6	バングラデシュ	219.5	7.7	トルコ	691.9	12.8
サウジアラビア	39.7	10.6	トルコ	191.8	6.7	バングラデシュ	350.2	6.5
トルコ	19.6	5.2	アルジェリア	166.3	5.8	アルジェリア	236.8	4.4
スーダン	18.7	5.0	ケニア	131.8	4.6	サウジアラビア	224.8	4.2
イエメン	16.3	4.3	ナイジェリア	114.5	4.0	カザフスタン	222.2	4.1
ケニア	16.1	4.3	サウジアラビア	99.6	3.5	パキスタン	213.0	3.9
その他	150.5	40.0	その他	1,402.8	49.2	その他	2,608.8	48.2
計	376.3	100.0	計	2,854.0	100.0	計	5,410.0	100.1

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

<ウクライナ> 2024/25年度の輸出量は前月から下方修正され16.0百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量（クリミア地域分を含む）は、前月予測からの変更はなく22.9百万トンと、3月以降、降水量が平年を下回り乾燥が続いた影響により前年度に比べ0.4%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べても18.0%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2024年12月上・中旬は温暖な気候により2025/26年度の冬小麦を含む秋播き作物は越冬に耐えうる状態まで生長した。下旬は比較的寒暖差が大きく、越冬にあたり耐寒性を獲得する上で適した気候となった。12月末現在の秋播き作物の作柄は、大部分の圃場で平年並み又は良好となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、製粉用小麦の供給不足を受け前月予測から0.5百万トン下方修正され16.0百万トンと、供給量の減少により前年度と比べ13.9%減、ロシアのウクライナ侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）と比べても11.6%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2024年9月3日、ウクライナ農業政策食料省は穀物市場関係者と覚書の附属書を締結し、2024/25年度の小麦の輸出上限は1,620万トンに設定された。

また、ウクライナ政府は2024年12月1日から輸出許可制度を廃止し、輸出安全保障制度を導入した。当該制度では、最低輸出価格の設定、付加価値税の納税者のみの輸出、輸出業者の管理のため銀行及び税務当局との間での電子データ情報の交換が定められている。

2024/25年度のうち2024年7月～12月の輸出量は986.6万トンと、前年同期（762.6万トン）と比べ29.4%増となっており、2024/25年度の輸出上限1,620万トンに対し本年度半年で60.9%を輸出している。国別にはスペイン235.8万トン（23.9%）、インドネシア155.1万トン（15.7%）、ベトナム81.6万トン（8.3%）の順となっており、前年度同様スペインが首位である一方、インドネシア、ベトナム、タイといったアジア諸国のシェアが増加している。一方で12月のみの輸出量は過去3か年で最小となっており、現地情報会社によれば、専門家は12月に導入された輸出安全保障制度によって輸出検査が厳格になり輸出の遅れをもたらしたと指摘している。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、輸出量の引下げ等を受け前月予測から0.2百万トン上方修正され1.0百万トンと、前年度に比べ39.4%増となるものの、史上3番目に低い水準となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

(単位:百万トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25(24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	21.5	23.0	22.9 (25.4)	-	▲ 0.4
消費量	7.8	6.7	6.7 (9.4)	0.3	-
うち飼料用	3.0	2.0	2.0 (1.4)	0.3	-
輸出量	17.1	18.6	16.0 (16.2)	▲ 0.5	▲ 13.9
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	33.3
期末在庫量	2.9	0.7	1.0 (0.7)	0.2	39.4
期末在庫率	11.8%	2.8%	4.4% (2.6%)	0.9	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.60	5.01	5.20 (6.17)	-	3.8
単収(t/ha)	3.84	4.59	4.40 (4.11)	-	▲ 4.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 ウクライナの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2025.1.10)をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

(輸出量:万トン、シェア:%)

2024/25年度 (2024年12月)		2024/25年度 (2024年7月～12月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
アルジェリア	22.2	27.7	スペイン	235.8	23.9
スペイン	14.9	18.6	インドネシア	155.1	15.7
エジプト	13.6	17.0	ベトナム	81.6	8.3
チュニジア	13.3	16.6	エジプト	80.0	8.1
イタリア	6.9	8.6	トルコ	107.8	5.9
オランダ	3.6	4.5	ルーマニア	100.1	5.4
モロッコ	1.4	1.7	パキスタン	81.4	4.4
イエメン	1.2	1.5	ベトナム	75.1	4.1
ギリシャ	0.9	1.1	バングラデシュ	46.7	4.7
ドイツ	0.7	0.9	バングラデシュ	44.8	4.5
その他	1.4	1.7	チユニジア	44.8	4.5
合計	80.1	100.0	合計	986.6	100.0

資料: APK-Inform Agencyのデータをもとに農林水産省で作成

< 中国 > 2024/25 年度の輸入量は前月から下方修正され 10.5 百万トンの見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の生産量は、単収の引上げを受け前月予測から 0.1 百万トン上方修正され 140.1 百万トンと、前年度と比べ 2.6%増、過去 5 年平均 (135.8 百万トン) と比べても 3.1%増となり史上最高となる見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」(2024.12.13) によれば、2024/25 年度の小麦の作付面積は 23.59 百万ヘクタールと、前年度 (23.63 百万ヘクタール) に比べ 0.2%減となるものの、単収は 5.94 トン/ヘクタールと、前年度 (5.78 トン/ヘクタール) と比べ 2.7%増となり、生産量も 140.1 百万トンと、前年度 (136.6 百万トン) と比べ 2.6%増。

中国農業農村部「農産品供需形成分析月報 2024 年 11 月号」によれば、主要生産地において、2025/26 年度の冬小麦の作付けがほぼ終了した。11 月上旬から中旬にかけ、ほとんどの地域で例年よりも気温が高く、土壌水分も良好であったことから、冬小麦の作付けや発芽、幼苗の生長に適していた。下旬には、ほとんどの地域において強風と気温低下がみられたものの、冬小麦の生育に大きな影響はなかった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく 151.0 百万トンと、経済成長による食生活の変化に伴い小麦粉需要が増加する一方、2023/24 年度に飼料用グレードの国産小麦が増加していたものが減少し飼料用消費量が減少することから、前年度と比べ 1.6%減となるものの、過去 5 年平均 (146.1 百万トン) と比べれば 3.4%増となる見込み。

2024/25 年度の輸入量は、低調な輸入を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 10.5 百万トンと、史上最高の生産量となり国内需給が緩和したことから、前年度に比べ 23.0%減となる見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～11 月までの輸入量は 174.6 万トンと、増産を受け前年同期 (348.2 万トン) と比べ 49.9%減となっている。国別には、カナダ 57.9 万トン (33.2%)、米国 46.2 万トン (26.5%)、ロシア 24.1 万トン (13.8%) の順となっており、豪州が 2023/24 年度の減産に伴う豪州産の相対的な価格競争力の低下等を受け前年同期の 49.6%から 11.3%と大きくシェアを減らしている一方で、米国及びロシアが大きくシェアを伸ばしている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、輸入量の引下げ等を受け前月予測から 0.4 百万トン下方修正され 133.1 百万トンと、前年度に比べ 1.0%減となる見込み。

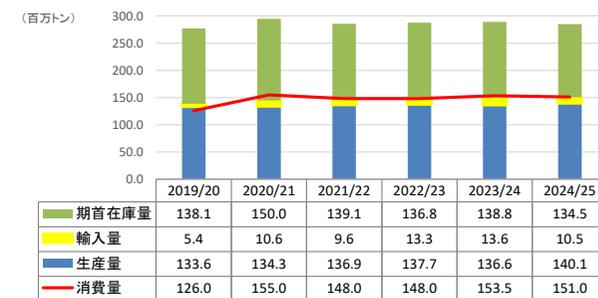
小麦—中国 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	137.7	136.6	140.1 (140.0)	0.1	2.6	
消費量	148.0	153.5	151.0 (146.8)	-	▲ 1.6	
うち飼料用	33.0	37.0	33.0 (28.0)	-	▲ 10.8	
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	-	▲ 3.8	
輸 入 量	13.3	13.6	10.5 (10.2)	▲ 0.5	▲ 23.0	
期末在庫量	138.8	134.5	133.1 (142.4)	▲ 0.4	▲ 1.0	
期末在庫率	93.2%	87.0%	87.6% (96.2%)	▲ 0.3	0.5	

(参考)
 収穫面積(百万ha) 23.52 23.63 23.59 (23.65) ▲ 0.11 ▲ 0.2
 単収(t/ha) 5.86 5.78 5.94 (5.92) 0.03 2.8
 資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(10 January 2025)
 IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 中国の小麦の供給量と消費量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2025.1.10) をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

(輸入量:万トン、シェア:%)

国 名	2024/25年度 (2024年7月～11月)		2023/24年度 (2023年7月～11月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
カナダ	57.9	33.2	86.7	24.9	307.8	23.0
米国	46.2	26.5	34.7	10.0	181.8	13.6
ロシア	24.1	13.8	18.9	5.4	43.0	3.2
カザフスタン	23.8	13.6	33.2	9.5	66.8	5.0
豪州	19.8	11.3	172.7	49.6	503.5	37.7
日本	2.0	1.1	1.4	0.4	3.3	0.2
フランス	0.7	0.4	0.3	0.1	230.1	17.2
その他	0.1	0.1	0.4	0.1	0.6	0.0
計	174.6	100.0	348.2	100.0	1,336.7	100.0

資料: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDAの見通し> 2024/25年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・中国、ガーナ、ロシアで上方修正されたものの、米国で下方修正され、前月から下方修正された。

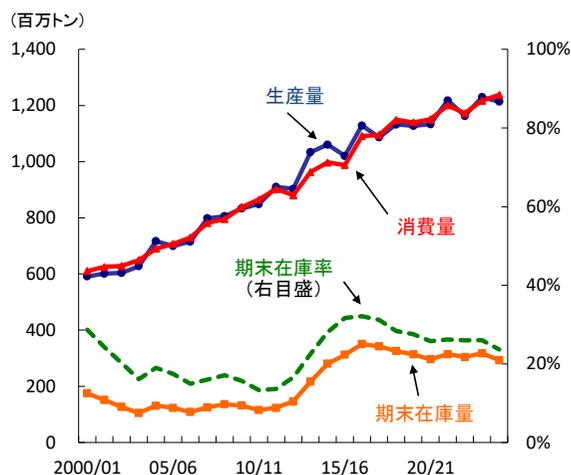
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国、日本、韓国等で下方修正されたものの、ブラジル、ガーナ、トルコ、ロシア等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・ブラジル、米国で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2025.1.10)をもとに農林水産省にて作成。

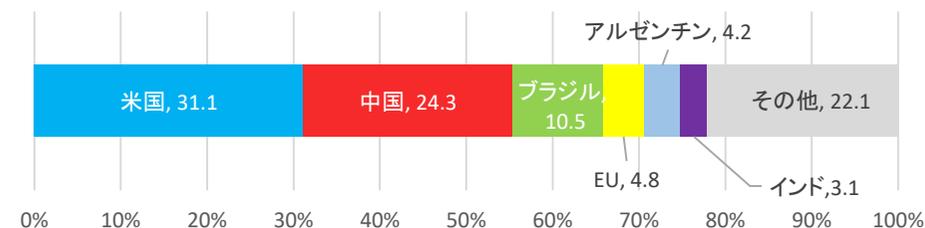
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

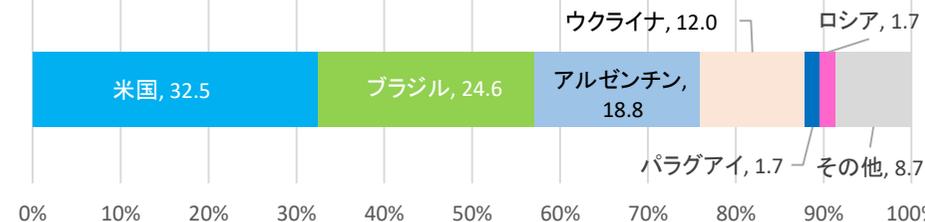
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,163.4	1,230.0	1,214.4	▲ 3.5	▲ 1.3
消費量	1,172.8	1,217.2	1,238.5	0.8	1.7
うち飼料用	735.5	772.0	778.3	▲ 1.0	0.8
輸出量	180.3	192.0	191.4	▲ 1.6	▲ 0.3
輸入量	173.4	197.1	183.2	▲ 0.8	▲ 7.1
期末在庫量	304.7	317.5	293.3	▲ 3.1	▲ 7.6
期末在庫率	26.0%	26.1%	23.7%	▲ 0.3	▲ 2.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 January 2025)

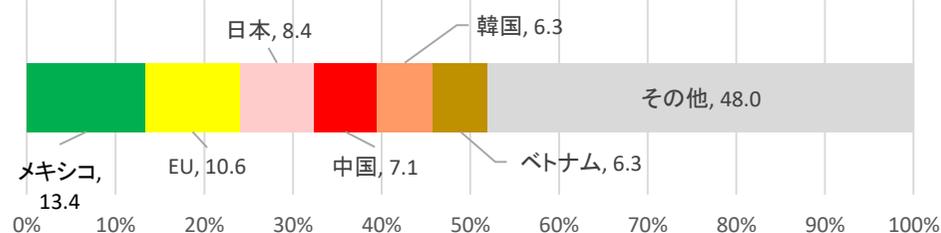
○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの生産量(1,214.4百万トン) (単位：%)



○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸出量(191.4百万トン) (単位：%)



○ 2024/25年度 世界のとうもろこしの輸入量(183.2百万トン) (単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 2024/25年度の生産量は史上最高の前年度から3.1%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、単収の引下げを受けて前月予測から7.0百万トン下方修正され、収穫面積の減少（対前年度比4.2%減）を受け、史上最高の前年度より3.1%減の377.6百万トンとなったものの、史上4番目に高い見通し。収穫面積の減少は、作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作で価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたことによる。なお、業界情報によれば、8月以降の生育後期における乾燥を受けて、とうもろこしの水分含量が想定より低かったことにより、単収実績が下がったとみられる。一方で、容積重（容積当たりの重量）は過去10年で最高となり、品質は良好とみられる。

【需要状況】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、飼料用消費の減少を受けて、前月予測から1.3百万トン下方修正され、前年度に比べ0.1%減の321.7百万トンの見通し。飼料用消費の引下げは、供給量の減少に加えて、2024年9～12月の飼料用消費量が前年同期から5.7%減の58.4百万トンとなったことによる。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、供給減を受けて前月予測から0.6百万トン下方修正されたものの、米国産が価格競争力を有する見通しを受けて前年度より6.9%増の62.2百万トンの見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.1.10）によれば、米国産の輸出価格は、1月6日現在、2024年9～12月の米国産の堅調な需要を受けて前月から9ドルトン上昇し、214ドルトンと、ブラジル産（225ドルトン）を下回り、アルゼンチン産と同水準と、価格競争力を有している。なお、2024年9～12月の輸出量は1,238.0万トンと、前年同期の1,233.5万トンより0.4%増。主な輸出先は、メキシコ494.9万トン（国別シェア40.0%）、日本202.5万トン（同16.4%）、コロンビア187.4万トン（同15.1%）の順。

USDAによれば、2024/25年度の期末在庫量は、生産量の引下げを受けて、前月予測から5.0百万トン下方修正され、前年度より12.7%減の39.1百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より1.6ポイント減少し10.2%と、過去5年平均（10.7%）を下回っている。

とうもろこし—米国

（概ね4～5月に作付けされ、9～11月に収穫される。）

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年9月～25年8月)		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	346.7	389.7	377.6	▲ 7.0	▲ 3.1
消費量	305.9	321.9	321.7	▲ 1.3	▲ 0.1
うち飼料用	139.4	147.4	146.7	▲ 1.3	▲ 0.5
エタノール用等	131.5	139.1	139.7	-	0.4
輸出量	42.2	58.2	62.2	▲ 0.6	6.9
輸入量	1.0	0.7	0.6	-	▲ 11.1
期末在庫量	34.6	44.8	39.1	▲ 5.0	▲ 12.7
期末在庫率	9.9%	11.8%	10.2%	▲ 1.3	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	31.85	35.01	33.55	0.08	▲ 4.2
単収(t/ha)	10.89	11.13	11.26	▲ 0.23	1.2

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)

図 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2024/25 年度の生産量は前年度から 4.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加を受けて前年度より 4.1%増の 127.0 百万トンと、史上 2 番目に高い生産量となる見通し。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) の月例報告 (2025.1.14) によれば、2024/25 年度のうち夏とうもろこしの生産量は、前年度比 3.3%増の 119.6 百万トンの見込み。夏とうもろこし (ブラジルのクロップカレンダー (図) 参照) は、生産コストの増加による大豆等の他作物への作付けシフトによる作付面積の減少等を受けて、前年度比 1.9%減の 22.5 百万トンの見込み。12 月末現在、作付進捗率は 81%と、前年同期 (80%) を上回っている。一方、冬とうもろこしは、単収の増加等を受け、前年度比 4.6%増の 97.0 百万トンの見込み。1 月上旬に中西部のマット・グロッソ州等で作付けが開始された。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」 (2025.1.14) によれば、1 月上旬、夏とうもろこしの主要生産地の南部では乾燥が続き、土壌水分量が限定され、単収の減少に対する懸念が高まる一方、冬とうもろこしの主要生産地の中西部では降雨があり、作付けに好影響を与えるとみられる。

なお、CONAB によれば、2024/25 年度は大豆の作付け開始と収穫が遅れているため、大豆収穫後に作付けされる冬とうもろこしの作付けに適した期間は短くなるとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の実消費量は、生産施設の新設によるエタノールの増産見通しを受けて前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、前年度から 2.9%増の 87.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の実輸出量は、輸出実績を受けて前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、増産を受けて前年度より 19.0%増の 47.0 百万トンとなり、前年に引き続き米国に次ぐ世界第 2 位の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～12 月の輸出量は 39.8 百万トンで、史上最高の増産となった前年度より減産したことから前年同期比 32%減。内訳は、エジプト 5.5 百万トン (国別シェア 13.7%)、ベトナム 4.6 百万トン (同 11.7%)、イラン 4.3 百万トン (同 10.9%) の順。国内のエタノール消費の増加を受け、2023/24 年産の冬とうもろこしの輸出量は引き続き低調となっている。

とうもろこしーブラジル

(夏とうもろこしは、概ね 8～翌年 1 月に作付けされ、2～4 月に収穫される。冬とうもろこしは、大豆収穫後の概ね 1～3 月に作付けされ、6～10 月に収穫される。)

(単位: 百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)			
			予測値、() はCONAB		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	137.0	122.0	127.0	(119.6)	-	4.1
消費量	78.0	85.0	87.5	(86.4)	2.0	2.9
うち飼料用	61.5	63.5	64.0	...	-	0.8
輸出量	54.3	39.5	47.0	(34.0)	▲ 1.0	19.0
輸入量	1.3	1.3	1.5	(1.7)	-	15.4
期末在庫量	10.0	8.8	2.8	(3.4)	-	▲ 67.9
期末在庫率	7.6%	7.1%	2.1%	(2.8%)	▲ 0.02	▲ 5.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	22.40	21.50	22.30	(20.96)	-	3.7
単収(t/ha)	6.12	5.67	5.70	(5.70)	-	0.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (10 January 2025)

CONAB 「Graos」 (14 January 2025)

図 ブラジルのクロップカレンダー (中部から南部)

2024/25 年度の夏とうもろこしの作付けは、2024 年 9 月以降、順次開始。
冬とうもろこしの作付けは、2025 年 1 月以降、大豆の収穫後に開始。

2024/25 年度	2024 年				2025 年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・スール州等)	作付 3.7 (百万ha)				収穫 22.5 (百万t)					収穫夏冬作計 119.6 百万t			
冬とうもろこし (マット・グロッソ州、パラナ州等)	作付面積夏冬作計 21.0 百万ha				作付 17.2 (百万ha)					収穫 97.0 (百万t)			
大豆 (マット・グロッソ州、パラナ州等)	作付 47.4 (百万ha)				収穫 166.3 (百万t)					大豆収穫後の一部圃場で冬とうもろこし作付け			

資料: CONAB 「Graos」 (2025.1.14) をもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、前年度より 2.0%増、過去 5 年平均 (49.7 百万トン) より 2.6%増の 51.0 百万トンの見込み。病虫害のヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしているほか、とうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆への作付けシフトが見込まれることから収穫面積が減少するものの、前年度に比べ単収が平年並み (凶作年を除く過去 10 年平均 7.94 トン/ヘクタール) に増加すると見込まれることによる。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2025.1.14) によれば、1 月上旬、中部及び東部の主要生産地では高温乾燥が広がり、とうもろこしの生育に悪影響を与えており、降雨が必要とされている。アルゼンチン政府によれば、1 月 9 日現在、作付進捗率は 93%と、前年同期 (88%) より進んでいる。

USDA 「World Agricultural Production」(2025.1.10) によれば、昨年遅植えとうもろこしにヨコバイが大量発生し作柄が悪化した一方、早植えとうもろこしは被害を免れたことから、多くの農家が例年より多くの早植えとうもろこしを作付けした。これにより作付進捗率は前年同期よりも進んでいるとみられる。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、前年度から 14.4%増の 16.3 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて、前年度より 5.9%増の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1～11 月の輸出量は 3,249.9 万トンで、2022/23 年度の減産から回復したことを受け、前年同期 (2,276.3 万トン) 比で 43%増となった。内訳は、ベトナム 648.8 万トン (国別シェア 20.0%)、ペルー 386.9 万トン (同 11.9%)、マレーシア 300.0 万トン (同 9.2%) の順。

アルゼンチン政府は、2021 年 12 月以降、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、小麦及びとうもろこしに輸出上限数量を設定していたものの、2024 年 5 月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、これを継続していたが、2025 年 1 月 25 日、1 月 27 日～6 月 30 日まで一時的にとうもろこしの輸出税を 9.5%に引き下げると発表した。

とうもろこしーアルゼンチン

(早植えとうもろこしは、概ね 9 月後半～12 月前半に作付けされ、遅植えとうもろこしは、概ね 12 月前半～翌年 2 月前半に作付けされる。概ね 3～8 月に収穫される。)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年3月～26年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	37.0	50.0	51.0 (54.0)	-	2.0
消費量	14.2	14.3	16.3 (20.5)	-	14.4
うち飼料用	10.0	10.0	12.0 (15.4)	-	20.0
輸 出 量	25.2	34.0	36.0 (35.0)	-	5.9
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0
期末在庫量	2.3	4.1	2.8 (1.6)	-	▲ 31.8
期末在庫率	5.9%	8.5%	5.3% (2.9%)	-	▲ 3.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.20	7.00	6.40 (7.50)	-	▲ 8.6
単収(t/ha)	5.14	7.14	7.97 (7.20)	-	11.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 アルゼンチン産とうもろこしの生産量、収穫面積、単収の推移



資料：USDA 「PS&D」(2025.1.10) をもとに農林水産省にて作成

写真 北部サンタフェ州のとうもろこしの圃場風景 (2024 年 12 月 27 日撮影)



当圃場のとうもろこしは、9 月上旬に作付けられ、現在は開花期～乳熟期にある。収穫作業は 3 月前半を予定。

撮影者：José Daniel Peloni

< ウクライナ > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 18.5%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、前年度より 18.5%減、侵攻前の史上最高の豊作となった 2021/22 年度から 37.1%減の 26.5 百万トンとなる見込み。収益性の高い油糧種子への作付けシフトを受けて収穫面積が減少（対前年度比 2.4%減）するとともに、7 月以降の高温乾燥の継続を受けて豊作の前年度から単収も減少（対前年度比 16.5%減）することにより、減産となる見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、11 月 28 日現在、収穫進捗率は 96%と、収穫作業は概ね完了。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加を受けて前年度より 4.7%増の 4.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、減産を受け、前年度より 22.0%減の 23.0 百万トンの見込み。

なお、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、臨時回廊による輸出が増加していることを受けて前年度より 8.9%増の 29.5 百万トンの見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 10~12 月の輸出量は 702.2 万トンと、前年同期（673.0 万トン）より 4.3%増。輸出先国は、トルコ 157.9 万トン（国別シェア 22.5%）、スペイン 110.8 万トン（同 15.8%）、イタリア 109.3 万トン（同 15.6%）の順。輸出手段別では、港湾経由が 657.9 万トン（シェア 93.7%）、鉄道経由が 40.5 万トン（同 5.8%）と港湾経由が主な輸送手段となっている。鉄道輸送については、ウクライナと EU で鉄道の軌間が異なることが輸送のネックとなっているとみられる。

報道情報（2024.12）によれば、ウクライナ鉄道は、2027 年までに、欧州の国際輸送に繋がる一部区画で EU の標準軌となる鉄道の敷設事業を実施する予定。また、ポーランドは、2026 年までに主要港湾のグダンスク港に大規模穀物ターミナルを建設する見込み。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、減産による供給減から前年度より 59.2%減、侵攻前の 5 か年平均より 74.7%減の 0.6 百万トンの見込み。2024/25 年度の期末在庫率は、前年度から 2.3 ポイント減の 2.3%と、2000/01 年度以降で最低の水準となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

（概ね 4~5 月に作付けされ、8~11 月に収穫される。）

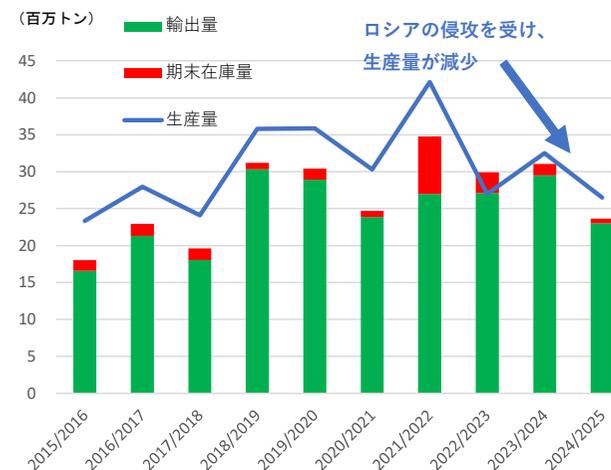
（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月~25年9月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.0	32.5	26.5 (26.0)	-	▲ 18.5
消費量	4.9	4.3	4.5 (4.7)	-	▲ 4.7
うち飼料用	4.0	3.3	3.5 (3.3)	-	▲ 6.1
輸出量	27.1	29.5	23.0 (21.6)	-	▲ 22.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	100.0
期末在庫量	2.8	1.6	0.6 (0.7)	-	▲ 59.2
期末在庫率	8.7%	4.7%	2.3% (2.6%)	-	▲ 2.3
（参考）					
収穫面積(百万ha)	4.05	4.20	4.10 (4.00)	-	▲ 2.4
単収(t/ha)	6.67	7.74	6.46 (6.50)	-	▲ 16.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移

（2024/25 年度の輸出量は、2017/18 年度以来の低水準の見込み）



資料：USDA「PS&D」(2025.1.10)をもとに農林水産省にて作成。

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 2.1%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、中国国家统计局の報告における収穫面積及び単収の増加を受けて、前月予測から 2.9 百万トン上方修正され、収穫面積の増加見込みを受けて、前年度より 2.1%増の 294.9 百万トンとなり、史上最高となる見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」(2024.12.13)によれば、2024 年の生産量は前年より 2.1%増の 294.9 百万トンとなる見込み。作付面積が 4,474 万ヘクタールと前年より 1.2%増加し、単収も 6.59 トン/ヘクタールと、前年より 0.9%増加したことによる。なお、一部地域で洪水や干ばつ、台風等の被害を受けたものの、大半では気象条件は良好であり、生育に有利に働いたとみられる。

なお、中国政府は、2024 年、とうもろこしの生産者向け補助金の増額等の生産者支援政策を拡大している。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用需要が増大することから、前年度より 2.0%増の 313.0 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局 (2025.1.17) によれば、2024 年の食肉生産量は 9,663 万トンと、前年比で 0.2%増。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、増産を受けて前月予測から 1.0 百万トン下方修正され、国内のデフレ圧力により国内価格が低下し、輸入意欲が低下するとの見通しを受けて前年度より 44.5%減の 13.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 1～11 月の輸入量は、国内産とうもろこし及び代替品の価格低下等を受けて前年同期比 39.4%減の 1,343.1 万トンの見込み。内訳は、ブラジル 634.6 万トン (47.2%)、ウクライナ 462.6 万トン (34.4%)、米国 206.5 万トン (15.4%) の順。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 11 月号」によると、11 月の国内価格は、2,280 元/トンと前月 (2,200 元/トン) から上昇した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引上げを受けて前月予測から 1.9 百万トン上方修正されたものの、輸入量の減少を受けて前年度より 2.4%減の 206.2 百万トンの見込み。

とうもろこし—中国

(春とうもろこしは、概ね 2～4 月に作付けされ、7～9 月に収穫される。
夏とうもろこしは、概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。)

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	277.2	288.8	294.9 (296.0)	2.9	2.1
消費量	299.0	307.0	313.0 (315.2)	-	2.0
うち飼料用	218.0	225.0	231.0 (213.0)	-	2.7
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	18.7	23.4	13.0 (13.0)	▲ 1.0	▲ 44.5
期末在庫量	206.0	211.3	206.2 (176.9)	1.9	▲ 2.4
期末在庫率	68.9%	68.8%	65.9% (56.1%)	0.6	▲ 3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	43.07	44.22	44.74 (44.90)	0.04	1.2
単収(t/ha)	6.44	6.53	6.59 (6.59)	0.06	0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC「Grain Market Report」(21 November 2024)

表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)

2024年1月～11月			2023年1月～12月			2022年1月～12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	634.6	47.2	ブラジル	1,280.6	47.2	米国	1,486.5	72.1
ウクライナ	462.6	34.4	米国	714.4	26.3	ウクライナ	526.4	25.5
米国	206.5	15.4	ウクライナ	551.8	20.3	ミャンマー	19.4	0.9
ロシア	12.4	0.9	ブルガリア	73.9	2.7	ブルガリア	14.7	0.7
ブルガリア	7.6	0.6	ミャンマー	38.1	1.4	ロシア	9.5	0.5
ミャンマー	5.9	0.4	ロシア	29.4	1.1	ラオス	5.1	0.2
その他	13.6	1.1	その他	24.5	0.9	その他	0.2	0.0
計	1,343.1	100	計	2,712.7	100	計	2,061.8	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDAの見通し> 2024/25年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- 中国、バングラデシュで下方修正され、前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

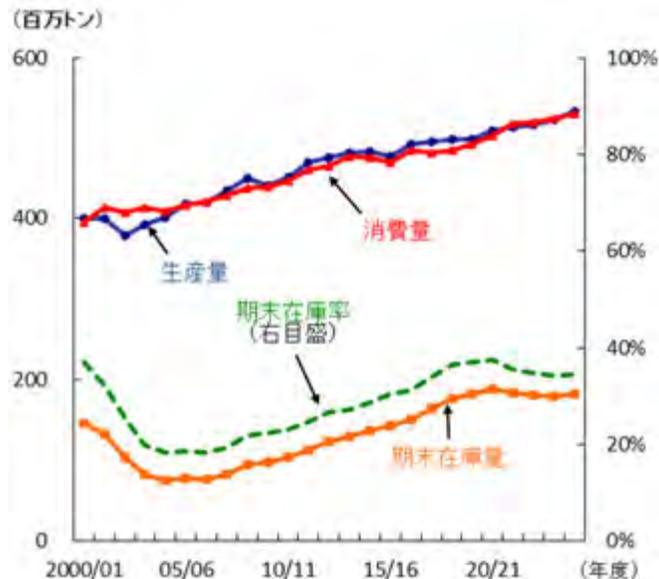
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- 中国、バングラデシュ、タンザニア等で下方修正され、前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- タイ、ベトナム等で下方修正され、前月から下方修正されたものの、史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2025.1.10)をもとに農林水産省にて作成

◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	516.7	522.6	532.9	▲ 0.8	2.0
消費量	520.3	523.8	530.2	▲ 0.1	1.2
輸出量	55.2	57.0	57.9	▲ 0.2	1.7
輸入量	57.3	53.0	54.1	▲ 0.7	2.1
期末在庫量	180.7	179.5	182.1	▲ 0.3	1.5
期末在庫率	34.7%	34.3%	34.3%	▲ 0.1	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 January 2025)

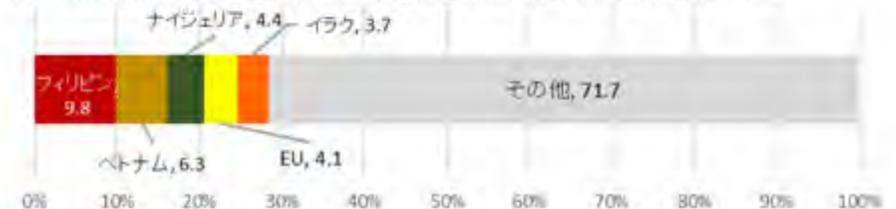
○ 2024/25年度の世界のコメの生産量(532.9百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸出量(57.9百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界のコメの輸入量(54.1百万トン)(単位：%)



(2) 国別のコメの需給動向

< タイ > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、20.1 百万トンと、前年度に比べ 0.5%増加する見込み。

タイ農業協同組合省農業経済局「農業経済」(2024.12)によれば、2024/25 年度の雨季米(2024 年 5 月～10 月作付け)は、農家は収穫を終え、乾季米の作付準備をしている。生産量は、良好な天候から、前年度に比べ 0.8%増の 27.0 百万トン(粳ベース)の見込み。作付面積は、前年度の 994 万ヘクタールから 992 万ヘクタールに減少する見込み。コメの市場価格が高いことから作付面積を増加させる生産者がいる一方、天候への懸念から乾燥に強いキャッサバや市場価格が高騰しているサトウキビへの作付けのシフトも行われている。

2024/25 年の乾季米(2024 年 11 月～2025 年 4 月作付け)の作付面積は、雨季中の降雨量が多く、十分な灌漑用水を供給できることから、前年度から 19%増の 192 万ヘクタールと予測されている。

アセアン食料安全保障情報システム(2024.12)によると、12 月時点で雨季米の収穫は、960 万ヘクタールとほぼ終了。作柄は良好、生産量は 27.0 百万トン(粳ベース)と僅かに増加した。

同(2025.1)によると、2024/25 年度の乾季米の作付面積は、前年度に比べ約 18%増加する見込み。豊富な水の供給と良好な気象条件により、単収は増加すると予測されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、インドネシア政府の輸入減の予測を受け、前月予測から 0.2 百万トン下方修正、前年度から 25.0%減少し、7.5 百万トンの見込み。

タイ関税局によれば、2024 年 1～11 月の輸出量は、前年同期比 16.0%増の 919 万トンで、主な輸出先国は、インドネシア 118 万トン(国別シェア 13%)、イラク 95 万トン(同 10%)、南アフリカ 80 万トン(同 9%)、米国 77 万(同 8%)。このうち、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大していたインドネシア向けの輸出量は、118 万トンと輸出先国の中で最大となっている。

タイ米輸出業者協会は、インド政府による輸出規制撤廃に加え、世界的に生産量の増加が見込まれることから、国際市場での競争が激化し、2024/25 年度のインドネシア向け輸出は大幅に減少すると見込んでいる。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

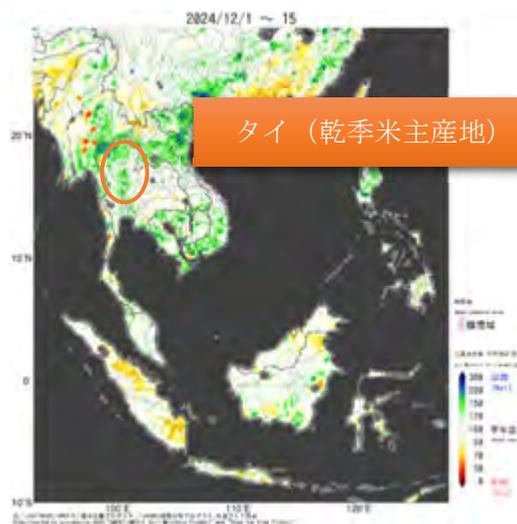
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)			
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	20.9	20.0	20.1 (20.1)	-	-	0.5
消費量	12.3	12.3	12.3 (12.4)	-	-	-
輸出量	8.7	10.0	7.5 (7.6)	▲ 0.2	▲ 25.0	-
輸入量	0.1	0.1	0.1 (0.0)	-	-	-
期末在庫量	4.4	2.2	2.6 (3.3)	0.2	18.6	-
期末在庫率	20.7%	9.6%	12.9% (16.6%)	1.1	3.2	-

(参考)

収穫面積(百万ha)	2022/23	2023/24	2024/25	(IGC)	対前年度増減率(%)
収穫面積(百万ha)	11.07	10.65	10.70	(10.70)	0.5
単収(粳t/ha)	2.86	2.85	2.85	(1.88)	-

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024) (単収は精米t/ha)

図 東南アジア土壤水分量年対比(2024. 12. 1～15)



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム (JASMAI)

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 1.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実産量は、前月予測から収穫面積が下方修正されたものの、単収が上方修正されたことにより 0.07 百万トン増。前年度から 1.9%増加し、7.1 百万トンと 2020/21 年度以降最大となる見込み。

同「Rice Outlook」(2025.1.14)によれば、2024/25 年度の種類別生産量は、長粒種は、収穫面積、単収ともに増加し、前年度より 12%増の 5.5 百万トンとなる見込み。一方、中・短粒種は、南部の生産州及びカリフォルニア州における収穫面積の減少を受け 1.6 百万トンと前年度より 22%減少する見込み。

【貿易情報・その他】同「Rice Outlook」(2025.1.14)によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ 4.2%増の 1.5 百万トンと史上最高の見込み。

長粒種の輸入量は、前月予測からの変更はなく、引き続きタイ及びインドを中心としたアジア諸国からの香り米の輸入が継続する見込みを受け、前年度に比べ 4.5%増の 1.24 百万トンと史上最高の見込み。

中・短粒種の輸入量は、前月予測から変更はなく、前年度に比べ 3%増の 0.24 百万トンと、引き続き中国、タイ、インド及びイタリアからの輸入が継続する見込み。

2024/25 年度の輸出量は 3.2 百万トンと、前月予測から変更はないものの、輸出余力の増加から、前年度に比べ 1.9%増加し、2016/17 年度以降最高となる見込み。

同「Exports Sales Query System」(2024.12)によれば、2023/24 年度(2023 年 8 月～2024 年 7 月)の輸出量は 327.7 万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 90.6 万トン(国別シェア 27.7%)、ハイチ 34.5 万トン(同 10.5%)、日本 29.6 万トン(同 9.0%)の順。種類別には、長粒種は、輸出量 263.4 万トンで、主な輸出先国は、メキシコ 84 万トン(国別シェア 31.9%)、ハイチ 34.5 万トン(同 13.1%)、ベネズエラ 21.7 万トン(同 8.2%)。中・短粒種は、輸出量 64.3 万トンで、主な輸出先国は、日本 29.6 万トン(国別シェア 46.0%)、韓国 13.8 万トン(同 21.5%)、メキシコ 6.6 万トン(同 10.3%)。

2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正となるものの、前年度に比べ 8.7%増加し、1.4 百万トンの見込み。

コメー米国

長粒種の生産量が 75%を占め、中・短粒種の生産量は 25%、その内カリフォルニア州での栽培が 20%

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 8月～25年 7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.1	6.9	7.1	0.1	1.9
消費量	4.6	4.9	5.2	0.2	6.5
輸出量	2.1	3.1	3.2	-	1.9
輸入量	1.3	1.4	1.5	-	4.2
期末在庫量	1.0	1.3	1.4	▲ 0.1	8.7
期末在庫率	14.4%	15.8%	16.4%	▲ 1.6	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.88	1.16	1.16	▲ 0.01	-
単収(収t/ha)	8.28	8.56	8.69	0.18	1.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)

図 米国の長粒種と中・短粒種の生産量・輸出価格の推移



資料：USDA「Rice Outlook」(2025.1.14)をもとに農林水産省で作成。
価格は年度内の平均価格

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25年度の生産量は、12月13日付の中国国家统计局の公表データに基づき、前月予測から0.7百万トン下方修正されるものの、政府の最低支持価格の上昇により、収穫面積が増加（前年度比0.2%増）することから、前年度比0.5%増の145.3百万トンとなる見込み。

中国国家统计局「2024年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024年の生産量は、作付面積29.0百万ヘクタール（前年度比0.2%増）及び単収7.15トン/ヘクタール（同0.1%増）の増加から、前年度に比べ0.5%増の207.5百万トン（粳ベース）の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25年度の消費量は、前月予測から0.2百万トン下方修正され145.5百万トンとなる見込み。飼料用需要が比較的安価なとうもろこしへシフトすることや、高齢化の進展、若年層の食生活の西洋化等に伴い食用需要が減少することから、前年度比で1.8%減少する見込み。なお、消費量は2021/22年度に史上最高の156.4百万トンに達したのち、3年連続で減少している。

2024/25年度の輸入量は、世界のコメ価格の下落を受けベトナム、ミャンマー、パキスタン、タイ、カンボジアといった伝統的なインディカ米の供給国からの輸入が増加するとの予測から、前年度比11.1%増の1.7百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、11月の輸入量は、前月に比べ5.58万トン増加し、17.15万トン（前月比48.26%増）。国際的なコメ価格の下落により中国国内産米との価格差が縮小したとみられる。

2024年1～11月の輸入量は125.0万トン（前年同期53%減）。内訳は、ミャンマー46.1万トン（国別シェア36.9%）、タイ31.7万トン（同25.4%）、ベトナム26.2万トン（同20.9%）の順。

USDAによれば、「一帯一路」政策の賛同国を拡大する目的から、同政策の関係国に対しコメの輸出促進を図っているものの、軟調な需要に基づく輸出が継続すると予測されることから、2024/25年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度比38.7%減の1.0百万トンの見込み。

2024/25年度の期末在庫量は、103.5百万トンと、生産量の下方修正を受け、0.5百万トン下方修正されたものの、前年度に比べ0.5%増の見込み。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

年度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年7月～25年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	146.0	144.6	145.3 (145.0)	▲ 0.7	0.5
消費量	155.0	148.1	145.5 (145.2)	▲ 0.2	▲ 1.8
輸出量	1.7	1.6	1.0 (1.6)	-	▲ 38.7
輸入量	4.4	1.5	1.7 (2.4)	-	11.1
期末在庫量	106.6	103.0	103.5 (102.1)	▲ 0.5	0.5
期末在庫率	68.0%	68.8%	70.7% (69.5%)	▲ 0.2	1.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	29.45	28.95	29.01 (29.00)	0.01	0.2
単収(粳t/ha)	7.08	7.14	7.15 (5.00)	▲ 0.04	0.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC「Grain Market Report」(21 November 2024) (単収は精米t/ha)

図 中国の生産量、収穫面積、単収の推移 (2004/05～2024/25年度)



資料：USDA「PS&D」(2025.1.10)をもとに農林水産省にて作成

< インド > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 5.2%増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実績は、前月予測から変更はなく、145.0 百万トンと、前年度比で 5.2%増加、過去 5 年平均（129.3 百万トン）と比べ 12.2%増加し、史上最高の見込み。収穫面積は、前月予測から変更はなく、50.0 百万ヘクタールと前年度に比べ 4.5%増加し史上最高となる見込み。単収も 4.35 トン/ヘクタールと、前年度（4.32 トン/ヘクタール）と比べ 0.7%増と史上最高となる見込み。

インド農業・農民福祉省（2024.11.5）によると、2024/25 年度のカリフ米生産量は、前年度（113.2 百万トン）から 5.9%増の 120 百万トンとなる見込み。カリフ米の作付面積は前年度（40.45 百万ヘクタール）から 2.5%増加し 41.45 百万ヘクタールとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測から変更はなく、旺盛な国内需要から前年度比 4.0%増の 121.0 百万トンとなる見込み。なお、国民の食料安全保障を確保するため、食料安全保障法に基づき、公的食料配給制度（PDS）が実施されており、より多くのコメが供給される見込み。政府は公的食料配給制度により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。

USDAによれば、2024/25 年度の輸出量は、インド政府の輸出規制撤廃等を受け、前年度比 49.0%増の 21.5 百万トンの見込み。依然として世界第 1 位の輸出シェアを維持し、世界全体のコメ輸出総量の約 37%を占める。2023/24 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、国内生産量の減少及び輸出規制強化から 14.4 百万トンと、前年度比 29.1%減。

インド輸出入統計によれば、2024 年 10 月の輸出量は 164.2 万トンで、主な輸出先国は、ベナン 18.9 万トン（国別シェア 11.5%）、コートジボアール 12.1 万トン（同 7.4%）、トーゴ 11.8 万トン（同 7.2%）の順。ベナン等のアフリカ諸国向けは非バスマティ米の輸出が主である。インド政府は、2022 年 9 月 9 日以降、非バスマティ米を中心に、輸出規制を発動・強化してきたが、史上最高の増産予測及び農家・輸出者からの要請を受け、2024 年 9 月 14 日に、バスマティ米の最低輸出価格の撤廃を発表した。また 9 月 27 日には、粳米、玄米、パーボイルド米の輸出関税を 20%から 10%への引き下げを発表。更に、10 月 23 日には、非バスマティ米の輸出禁止措置の撤廃を発表した。また、インド政府は、2025 年 1 月 1 日、インドネシア政府と年間 100 万トンの非バスマティ米の貿易に関する覚書を調印、閣議決定したと発表した。

インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、12 月時点での期末在庫量は、28.03 百万トン（精米）と前年に比べ 52.7%増の見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予 測 値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生 産 量	135.8	137.8	145.0 (144.5)	-	5.2	
消 費 量	114.5	116.4	121.0 (121.0)	-	4.0	
輸 出 量	20.3	14.4	21.5 (21.1)	-	49.0	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	35.0	42.0	44.5 (44.1)	-	6.0	
期末在庫率	26.0%	32.1%	31.2% (31.0%)	-	▲ 0.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	47.83	47.83	50.00 (50.00)	-	4.5	
単収(粳t/ha)	4.26	4.32	4.35 (2.89)	-	0.7	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC「Grain Market Report」(21 November 2024)（単収は精米t/ha）

表 インドのコメ輸出規制(2024 年 10 月 23 日時点)

対象品目	措置内容
全ての種類のコメの粳 (HS 1006 10)	輸出関税 (10%)
全ての種類のコメの玄米 (HS 1006 20)	輸出関税 (10%)
バスマティ米・精米 (HS1006 30 20)	輸出関税：12,000ルピー/t (日本円で約2万円/t)
パーボイルド米・精米 (HS1006 30 10)	輸出関税 (10%)
バスマティ米・パーボイルド米以外の精米 (HS1006 30 90)	輸出再開
碎米 (HS1006 40 00)	輸出禁止

※食料安全保障上の理由でインド政府が認める場合は輸出を許可
※有機米は本措置の対象外
資料：インド政府の公示等をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 2024/25 年度の生産量は、前年度に比べ 0.8% 増加する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、26.5 百万トンと、前年度を 0.8% 上回る見込み。2016/17 年度以降、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水流量減少、肥料価格の高騰、高収益作物等（果物・野菜・養殖）へのシフト等から、作付面積は減少傾向にあったが、2024/25 年度の収穫面積は 6.95 百万ヘクタールと昨年と比べ 0.7% 増加する見込み。2023/24 年度の実生産量は、前月予測から変更はなく、26.3 百万トンと前年度に比べ 0.8 百万トン減少する見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2024.12 及び 2025.1）によると、紅河デルタ地域（北部）では雨季米の収穫が終わり、単収は 5.36 トン/ヘクタールと、台風 11 号「ヤギ」の影響を受け、昨年より 1.9% 減少する見込み。冬作物（トウモロコシ、ジャガイモ等）の作付期のため、乾季米（冬春作）の作付けはまだ始まっていない。メコンデルタ地域（南部）では、雨季米（夏秋作と冬作）が収穫期にあり、作付面積 1.26 百万ヘクタールのうち、収穫面積は 0.68 百万ヘクタールであり、温暖な天候と灌漑整備が進み、単収は、昨年より 3.3% 増の 5.8 トン/ヘクタールの見込み。乾季米（冬春作）は、作付けが始まっており、作付面積は 1.27 百万ヘクタールとのこと。メコンデルタ地域は、海水の浸潤による農業用水の不足が懸念されている。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」（2025.1.14）によれば、2024/25 年度の輸入量は、前年度に比べ 10.5% 減の 3.4 百万トンとなる見込み。ベトナムのコメ輸入の大部分をカンボジアが占めており、カンボジアで精米されたほとんどがベトナム向けに出荷され、残りはインドから輸入している。

USDAによれば、2024/25 年度の輸出量は、インドネシア政府調達への減少及び世界第 1 位のコメ輸出国であるインドが非バスマティ米の輸出規制撤廃等を実施したことによる同国との競争激化が予想され、前月予測から 0.3 百万トン下方修正、前年度から 16.7% 減少し、7.5 百万トンとなる見込み。

ベトナム税関総局によれば、2024 年 1～12 月の輸出量は 903.4 万トンと、前年同期（813.2 万トン）に比べ 11.1% 増加。主な輸出先国は、フィリピン 422.1 万トン（国別シェア 46.7%）、インドネシア 125.7 万トン（同 13.9%）、マレーシア 71.9 万トン（同 7.9%）、ガーナ 61.3 万トン（同 6.7%）の順。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.1.10）によれば、ベトナム産米（長粒種、5% 碎米混入）の 1 月 7 日までの週の価格は、主力市場であるフィリピンの需要低迷を反映し、前月 12 月 10 日までの週から 59 ドル/トン下落し、449 ドル/トンとなった。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (25年1月～25年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	26.3	26.5 (28.6)	-	0.8
消費量	22.4	22.4	22.4 (22.7)	0.1	-
輸出量	8.2	9.0	7.5 (7.3)	▲ 0.3	▲ 16.7
輸入量	3.3	3.8	3.4 (2.2)	-	▲ 10.5
期末在庫量	3.4	2.1	2.1 (3.1)	0.6	-
期末在庫率	11.0%	6.6%	6.9% (10.2%)	2.1	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.12	6.90	6.95 (7.12)	-	0.7
単収(粍t/ha)	6.10	6.10	6.10 (4.02)	-	-

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC「Grain Market Report」(21 November 2024) (単収は精米t/ha)

図 長粒種の FOB 価格の推移
(2024 年 1 月 7 日～2025 年 1 月 7 日)



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2025.1.10)より

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要 (詳細は右表を参照)

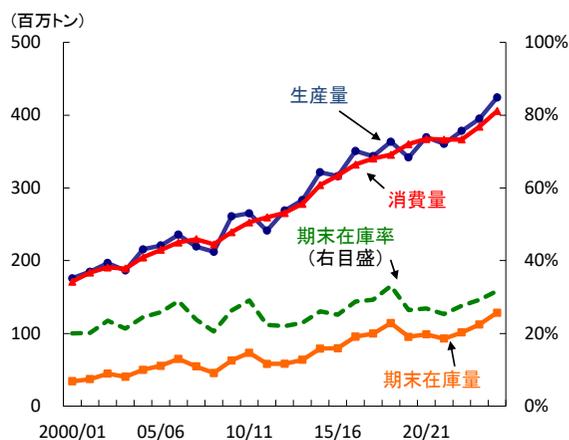
<USDAの見通し> 2024/25年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓
 ・米国、ロシア、中国で下方修正され、前月予測から下方修正された。史上最高の見込み。

消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑
 ・ブラジル、ベトナム等で上方修正され、前月予測から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 —
 ・前月予測からの変更はなく、前年度から増加し、史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2025.1.10)をもとに農林水産省で作成

◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

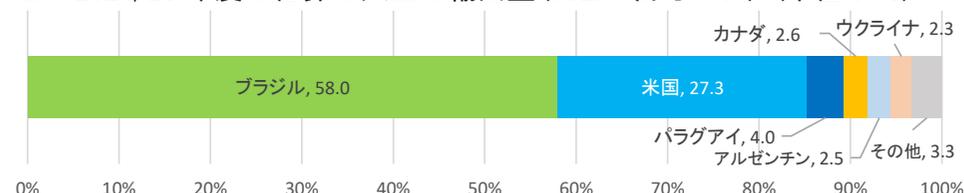
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	378.2	395.0	424.3	▲ 2.9	7.4
消費量	366.7	384.3	405.5	▲ 1.9	5.5
うち搾油用	315.6	331.2	349.3	▲ 1.9	5.4
輸 出 量	171.8	177.6	182.0	—	2.4
輸 入 量	168.6	178.1	179.2	▲ 1.1	0.7
期末在庫量	101.2	112.4	128.4	▲ 3.5	14.2
期末在庫率	27.6%	29.2%	31.7%	▲ 1.0	2.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 January 2025)

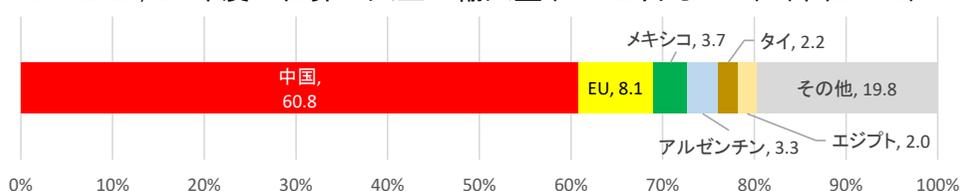
○ 2024/25年度の世界の大豆の生産量(424.3百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界の大豆の輸出量(182.0百万トン)(単位：%)



○ 2024/25年度の世界の大豆の輸入量(179.2百万トン)(単位：%)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 2024/25 年度の生産量は前年度から 4.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実生産量は、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 4.9%増の 118.8 百万トンと史上 4 番目の見通し。作付け時の大豆価格が、前年度に史上最高の豊作となり価格が下落したとうもろこしに比べ大豆の作付けに有利であったため、多くの農家が大豆の作付けに切り替えたとみられる。ただし、1 月の需給報告において、カンザス州、ノースダコタ州、サウスダコタ州等の収穫面積が引き下げられ、インディアナ州、カンザス州、イリノイ州、アイオワ州、オハイオ州等の単収が引き下げられたことを受けて、生産量は前月予測から 2.6 百万トン下方修正された。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からわずかに上方修正され、大豆油等の需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 4.8%増の 68.7 百万トンで史上最高の見込み。

USDA 「Oil Crops Outlook」(2025.1.14) によれば、2024 年 9～11 月の大豆搾油量は、前年同期より 6%増の 15.6 百万トンの見込み。パーム油等の他の油糧種子の供給減を受けて、米国産の大豆油が相対的に安価となっており、12 月の大豆油の輸出量は 14.8 万トンと、2010 年以降で最大となっている。なお、国内の今後のバイオ燃料政策が不透明であることを背景に、搾油業者は海外向けに販売する意向であるため、2024/25 年度の大豆油の国内消費量は減少し、大豆油の輸出量は増加するとみられる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の搾油用需要が増加する見通しから、前年度より 7.7%増の 49.7 百万トンの見込み。

USDA によれば、2024 年 9～12 月の輸出量は 2,665.7 万トンと、世界的な大豆需要の増加を受けて前年同期の 2,324.2 万トンより 15%増。内訳は中国 1,530.5 万トン (国別シェア 57.4%)、メキシコ 171.4 万トン (同 6.4%)、イタリア 154.7 万トン (同 5.8%) の順となっている。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引下げを受けて前月予測から 2.5 百万トン下方修正されたものの、増産を受けて前年度より 10.9%増の 10.3 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前月予測から 2.1 ポイント下方修正され 8.7%と、前年度 (8.3%)、過去 5 年平均 (8.0%) を上回っている。

大豆－米国

(概ね 5～6 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

(単位：百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年 9月～25年 8月)		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.2	113.3	118.8	▲ 2.6	4.9
消費量	63.3	65.6	68.7	0.03	4.8
うち搾油用	60.2	62.2	65.6	-	5.4
輸 出 量	53.9	46.1	49.7	-	7.7
輸 入 量	0.7	0.6	0.5	0.1	▲ 5.3
期末在庫量	7.2	9.3	10.3	▲ 2.5	10.9
期末在庫率	6.1%	8.3%	8.7%	▲ 2.1	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	34.87	33.29	34.82	▲ 0.09	4.6
単収(t/ha)	3.33	3.40	3.41	▲ 0.07	0.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)

図 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格 (FOB) の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 2024/25 年度の生産量は前年度から 10.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、収穫面積が史上最高となる見込みを受け、前年度より 10.5%増の 169.0 百万トンと史上最高の見通し。

CONAB の月例報告（2025.1.14）によれば、2024/25 年度の実績は、とうもろこしから収益性が高い大豆に作付けがシフトすること等による作付面積の増加を受けて前年度より 12.6%増の 166.3 百万トンの見通し。1 月上旬時点の作付進捗率は 98.5%と概ね完了。主要生産州の中西部のマット・グロッソ州において、12 月後半から収穫が開始された。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2025.1.14) によれば、1 月上旬、主要生産州の中西部マット・グロッソ州において降雨があり、大豆の生育に適した土壌水分量が維持されているとみられる。ただし、南部においては、乾燥が続く、土壌水分量が限定され、単収の減少に対する懸念が高まっている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、搾油用消費の引上げを受けて前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度より 0.9%増の 59.1 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、中国からの引き続き堅調な需要等により、前年度から 1.3%増の 105.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024 年 1～12 月の輸出量は 98.8 百万トンで、前年同期（101.9 百万トン）に比べ 3.0%減となるも、中国向け輸出は引き続き堅調に推移している。輸出先は、中国 72.6 百万トン（国別シェア 73.4%）、スペイン 4.2 百万トン（同 4.2%）、タイ 3.5 百万トン（同 3.5%）の順。

報道情報（2024.12.9）によれば、12 月上旬、アマゾン川南部の 2 つの主要な支流（タパジヨス川、マデイラ川）において、降雨による水位の回復を受けて、数カ月間停止されていたはしけへの穀物等の積み込み作業が再開された。ブラジルでは、従来からの主要な穀物輸送手段であるトラック輸送に加え、近年では鉄道輸送網が整備されており、2023 年 6 月、北部マラニオン州イタキ港と南部サンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。アマゾン川の水運も主要な輸送手段の一つとなっているものの、商社等の情報によれば、アマゾン川経由での北部港からの輸出は主に EU、エジプト向けのため、アマゾン川の水位低下による我が国向け輸出への影響は小さいとみられる。

大豆—ブラジル

（概ね 9～12 月に作付けされ、1～4 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、() はCONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	162.0	153.0	169.0 (166.3)	-	10.5
消費量	57.2	58.6	59.1 (60.2)	1.0	0.9
うち搾油用	53.4	54.7	55.0 …	1.0	0.5
輸出量	95.5	104.2	105.5 (105.5)	-	1.3
輸入量	0.2	0.9	0.2 (0.5)	-	▲ 82.8
期末在庫量	36.8	28.0	32.5 (2.2)	▲ 1.0	16.3
期末在庫率	24.1%	17.2%	19.8% (1.3%)	▲ 0.7	2.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	44.60	46.10	47.30 (47.40)	-	2.6
単収(t/ha)	3.63	3.32	3.57 (3.51)	-	7.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
CONAB 「Graos」(14 January 2025)

写真 中西部マット・グロッソ州の大豆の圃場風景 (2024 年 12 月 26 日撮影)



撮影者：Juliana Silva

当圃場の作付作業は 2024 年 10 月 13 日に行われ、収穫作業は 2025 年 1 月 25 日に見込まれている。生育は良好で、病気はほぼ発生していない。

< カナダ > 2024/25 年度の生産量は前年度から 8.4%増加する見込み (AAFC)

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2025.1.20)によれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、東部での収穫面積と単収の増加等により、前年度 (7.0 百万トン) から 8.4%増の 7.6 百万トンの見込み。

カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2024」(2024.12.5)によれば、州別には、米国コーンベルトに隣接する最大生産州オンタリオ州の実生産量は、前年度に比べ 7.9%増の 4.4 百万トンの見込み。とうもろこし等の他作物より価格が有利な大豆の作付けを増加させたため収穫面積が増加する (対前年度比 7.0%増) ことが主な要因とみられる。隣接するマニトバ州、ケベック州でも生産されており、マニトバ州では、収穫面積は減少 (同 10.9%減) したものの、生育後期の良好な生育条件から単収が大きく増加 (同 21.5%増) したことを受け前年度より 8.3%増の 1.7 百万トン、ケベック州では収穫面積 (同 3.4%増)、単収 (同 5.8%増) とともに増加し、前年度より 9.3%増の 1.4 百万トンの見込み。ケベック州西部においても平年以上の降雨と夏の温暖な気候を受けて単収が向上したとみられる。

なお、AAFCによれば、2025/26 年度の作付面積は、大豆価格の低下を受けて農家が他作物に作付けをシフトさせることが見込まれることから、2024/25 年度 (231 万ヘクタール) から 6.9%減の 215 万ヘクタールの見込み。

【需要状況】AAFCによれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用等の需要の増加により前年度 (2.2 百万トン) から 11.4%増の 2.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給増を受けて前年度 (4.9 百万トン) より 12.3%増の 5.5 百万トンと史上 2 番目の高水準となる見込み。

カナダ穀物委員会によれば、2024/25 年度 (2024 年 8~11 月) の輸出量は 227.7 万トンで、前年同期 (171.7 万トン) を上回っている。国別では、中国 71.2 万トン (国別シェア 31.3%)、イラン 40.3 万トン (同 17.7%)、アルジェリア 20.5 万トン (同 9.0%) の順となっている。

AAFCによれば、2024/25 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、増産を受けて前年度から 6.6%増の 0.6 百万トンの見込み。

大豆—カナダ

(概ね 5~6 月に作付けされ、9~11 月に収穫される。)

(単位: 百万トン)

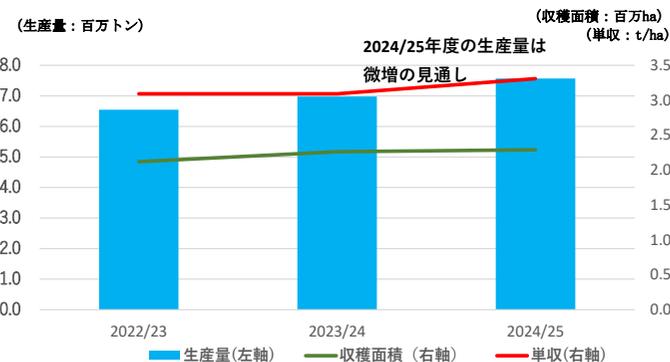
年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年8月~25年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.5	7.0	7.6 (7.6)	-	8.4
消費量	2.7	2.3	2.9 (2.5)	-	25.1
うち搾油用	1.8	1.7	1.8 (1.9)	-	5.9
輸出量	4.2	4.8	4.8 (5.5)	-	▲ 0.9
輸入量	0.5	0.3	0.4 (0.5)	-	4.5
期末在庫量	0.4	0.6	0.8 (0.6)	-	47.6
期末在庫率	5.3%	7.9%	10.9% (7.5%)	-	3.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	2.12	2.26	2.29 (2.29)	-	1.3
単収(t/ha)	3.09	3.09	3.30 (3.31)	-	6.8

資料: USDA「PS&D」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 January 2025)

図 カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料: AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2025.1.20) をもとに
農林水産省にて作成

< 中国 > 2024/25 年度の生産量は、史上最高の前年度から 0.9%減少する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、中国国家统计局の報告における収穫面積の引下げを受けて、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、前年度より 0.9%減の 20.7 百万トンとなるも、史上 2 番目に高い見込み。

中国国家统计局「2024 年糧食生産量データ」（2024.12.13）によれば、2024 年の生産量は、前年から 0.9%減の 20.7 百万トンとなる見込み。単収は 2.00 トン/ヘクタールと前年から 0.5%増加したものの、作付面積は 10.34 百万ヘクタールと前年より 1.4%減少することによる。

中国政府は、2024 年、大豆生産の安定化に向け、大豆生産者への補助金の増額等の政策による生産者支援を拡大している。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の畜産物の需要増を受けて大豆粕の需要が増加することから、前年度より 4.2%増の 126.9 百万トンと史上最高の見込み。背景には国内の堅調な食肉需要があり、中国国家统计局（2025.1.17）によれば、2024 年の食肉生産量は 9,663 万トンと、前年比で 0.2%増。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の前年度より 2.7%減の 109.0 百万トンとなるも、引き続き高水準を維持する見込み。

USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 7.2%増の 112.0 百万トンとなる見込み。なお、中国海関統計によれば、2024 年 1～11 月の輸入量は、前年同期より 9.4%増の 9,709.4 万トン。内訳は、ブラジル 7,171.4 万トン（73.9%）、米国 1,788.0 万トン（18.4%）、アルゼンチン 383.8 万トン（4.0%）の順。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2024 年 11 月号」によると、11 月の国内価格は、国内在庫の市場への供給を受け、4,300 元/トンと前月（4,380 元/トン）から下落した。

USDA によれば、2024/25 年度の期末在庫量は、生産量の引下げを受けて前月予測からわずかに下方修正されたものの、生産量と輸入量の合計が消費量を上回っていることを受けて、前年度より 6.1%増の 46.0 百万トンと史上最高の見込み。

大豆—中国

（概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	20.3	20.8	20.7 (20.1)	▲ 0.1	▲ 0.9	
消費量	117.5	121.8	126.9 (127.8)	-	4.2	
うち搾油用	96.0	99.0	103.0 (105.8)	-	4.0	
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	42.9	
輸 入 量	104.5	112.0	109.0 (108.5)	-	▲ 2.7	
期末在庫量	32.3	43.3	46.0 (46.9)	▲ 0.05	6.1	
期末在庫率	27.5%	35.5%	36.2% (36.7%)	▲ 0.04	0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.24	10.47	10.33 (10.16)	▲ 0.17	▲ 1.3	
単収(t/ha)	1.98	1.99	2.00 (1.97)	0.03	0.5	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

表 中国の大豆輸入量と輸入先国

（輸入量：万トン、シェア：%）

2024年 1月～11月			2023年 1月～12月			2022年 1月～12月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	7,171.4	73.9	ブラジル	6,993.0	70.7	ブラジル	5,439.3	61.0
米国	1,788.0	18.4	米国	2,374.3	24.0	米国	2,780.2	31.2
アルゼンチン	383.8	4.0	アルゼンチン	199.2	2.0	アルゼンチン	351.8	3.9
ウルグアイ	121.2	1.2	カナダ	146.6	1.5	ウルグアイ	178.8	2.0
カナダ	100.7	1.0	ロシア	129.3	1.3	カナダ	71.9	0.8
ウクライナ	61.5	0.6	南アフリカ	14.7	0.1	ロシア	69.4	0.8
その他	82.9	0.9	その他	38.6	0.4	その他	30.4	0.3
計	9,709.4	100.0	計	9,895.7	100.0	計	8,921.8	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< アルゼンチン > 2024/25 年度の生産量は、前年度から 7.9%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2024/25 年度の実績は、前月予測からの変更はなく、前年度から 7.9%増の 52.0 百万トンの見込み。増産の主な要因は、大豆の収益性が高まっていることに加え、農家が病害虫のヨコバイによる被害懸念からとうもろこしから大豆へ作付けをシフトさせることによる。

USDA 「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2025.1.14) によれば、1 月上旬、主要生産地の中部及び東部では乾燥が続き、大豆の生育に悪影響を与えている。1 月 9 日現在、作付進捗率は 96%と、前年同期 (95%) を上回っている。

ブエノスアイレス取引所週報 (2025.1.16) によれば、水分量が「最適～適切」の割合が前週から 17 ポイント減少するとともに、作柄が「良好～正常」の割合は 10 ポイント減少しており、水分量の低下に伴い作柄が悪化しているため、降雨が必要とされている。

【需要状況】USDA によれば、2024/25 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、増産に伴い搾油量が増加することから、前年度比 10.9%増の 48.6 百万トンの見込み。なお、アルゼンチンは、丸大豆の搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、世界有数の大豆油及び大豆粕の輸出国である。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2024/25 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 23.0%減の 6.0 百万トンの見込み。

2024/25 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、世界全体の供給量の引上げによる競争の激化を受けて前年度より 11.9%減の 4.5 百万トンとなるも、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。

なお、アルゼンチン国家統計局によれば、2024 年 1～11 月の輸出量は、前年度の干ばつによる減産からの回復を受けて 459.0 万トンで前年同期 (182.3 万トン) の 2.5 倍。輸出先は、中国 391.9 万トン (国別シェア 85.4%)、米国 12.3 万トン (同 2.7%)、チリ 5.9 万トン (同 1.3%) の順で、4 月以降、中国向け輸出が急増しており、中国向け輸出量は、前年同期比 144%増。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%を設定していたが、2025 年 1 月 25 日、1 月 27 日～6 月 30 日まで一時的に大豆を 26%、大豆油及び大豆粕を 24.5%に引き下げると発表した。

大豆—アルゼンチン

(早植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、3～7 月に収穫。
遅植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、4～7 月に収穫。)

(単位:百万トン)

年 度	2022/23	2023/24 (見込み)	2024/25 (24年10月～25年9月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.0	48.2	52.0 (51.5)	-	7.9
消費量	36.6	43.8	48.6 (48.9)	-	10.9
うち搾油用	30.3	36.6	41.0 (42.4)	-	12.1
輸 出 量	4.2	5.1	4.5 (5.7)	-	▲ 11.9
輸 入 量	9.1	7.8	6.0 (5.7)	-	▲ 23.0
期末在庫率	17.0	24.1	29.0 (12.6)	▲ 0.03	20.4
	41.7%	49.1%	54.5% (23.2%)	▲ 0.1	5.4

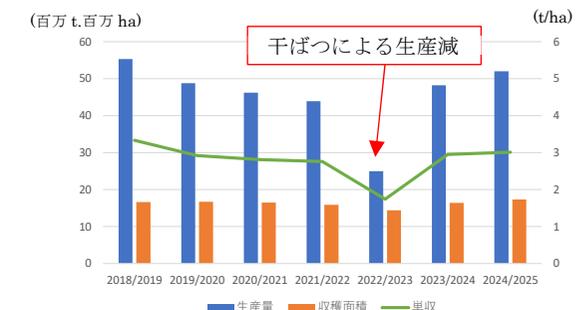
(参考)

収穫面積(百万ha)	14.40	16.37	17.30 (17.00)	-	5.7
単収(t/ha)	1.74	2.95	3.01 (3.03)	-	2.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2025)

IGC 「Grain Market Report」(21 November 2024)

図 アルゼンチン産大豆の生産量、収穫面積、単収の推移



資料: USDA 「PS&D」(2025.1.10) をもとに農林水産省にて作成

写真 北部サンタフェ州の大豆の圃場風景 (2024 年 12 月 27 日撮影)



本圃場では大豆の作付作業が 2024 年 11 月上旬に行われ、現在の生育ステージは開花期にある。収穫作業は 2025 年 4 月前半を予定。

撮影者: José Daniel Peloni

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について (2024/25年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	24年6月～25年5月	24年9月～25年8月	24年8月～25年7月	24年9月～25年8月
カナダ	24年8月～25年7月			24年8月～25年7月
豪州	24年10月～25年9月		25年3月～25年2月	
EU	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
中国	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月
ロシア	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		24年9月～25年8月
ウクライナ	24年7月～25年6月	24年10月～25年9月		
ブラジル		25年3月～26年2月	25年4月～26年3月	24年10月～25年9月
アルゼンチン	24年12月～25年11月	25年3月～26年2月		24年10月～25年9月
タイ			25年1月～12月	
インド	24年4月～25年3月		24年10月～25年9月	
ベトナム			25年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2024/25年度は、米国の小麦では2024年6月～2025年5月、ブラジルのとうもろこしでは2025年3月～2026年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国

1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
------------	-----	-----	-----

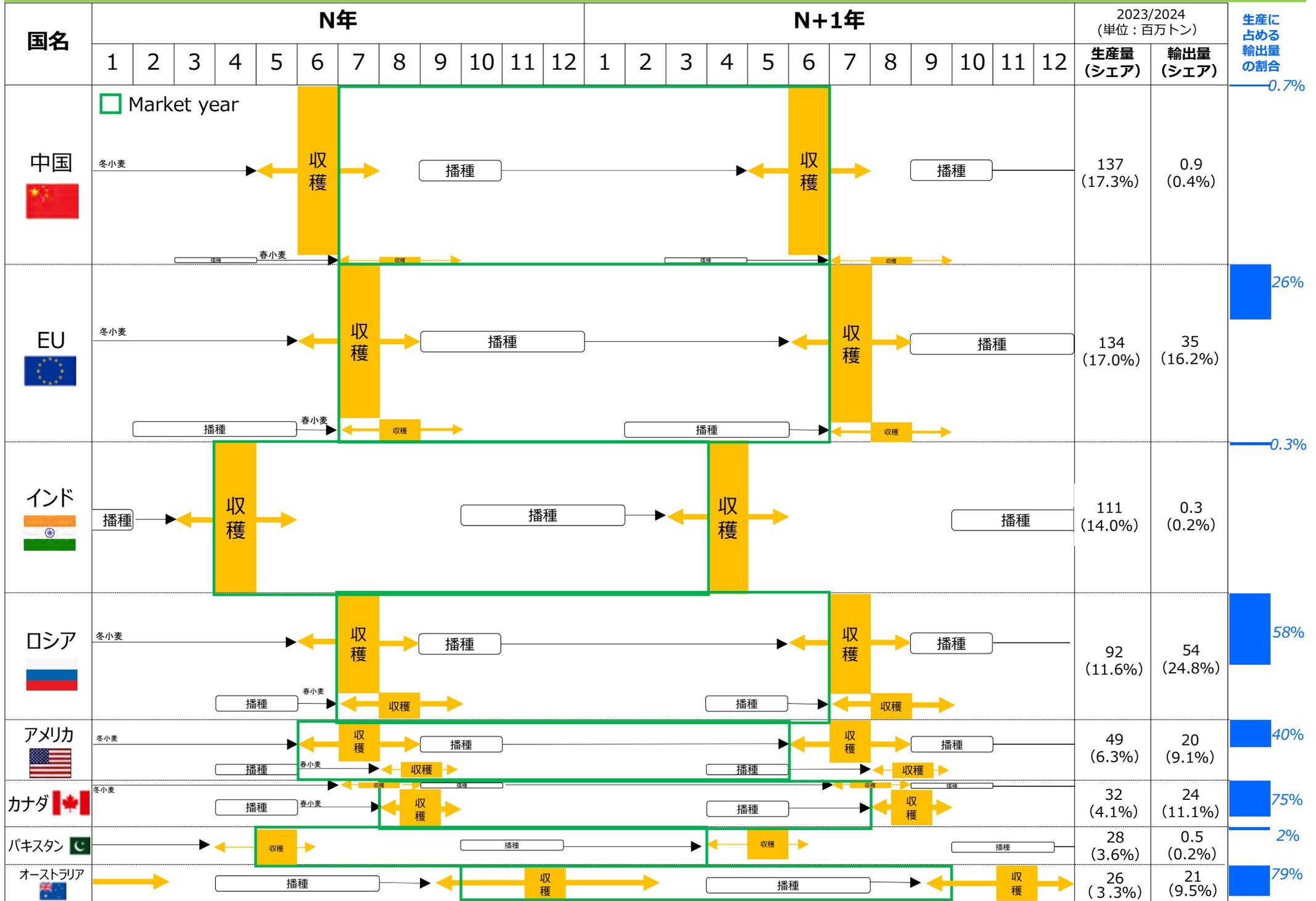
1斤	500g	重量	中国
----	------	----	----

華氏→摂氏 : $^{\circ}\text{C} = (^{\circ}\text{F} - 32) \div 1.8$			
---	--	--	--

(参考3)各国のクロープカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



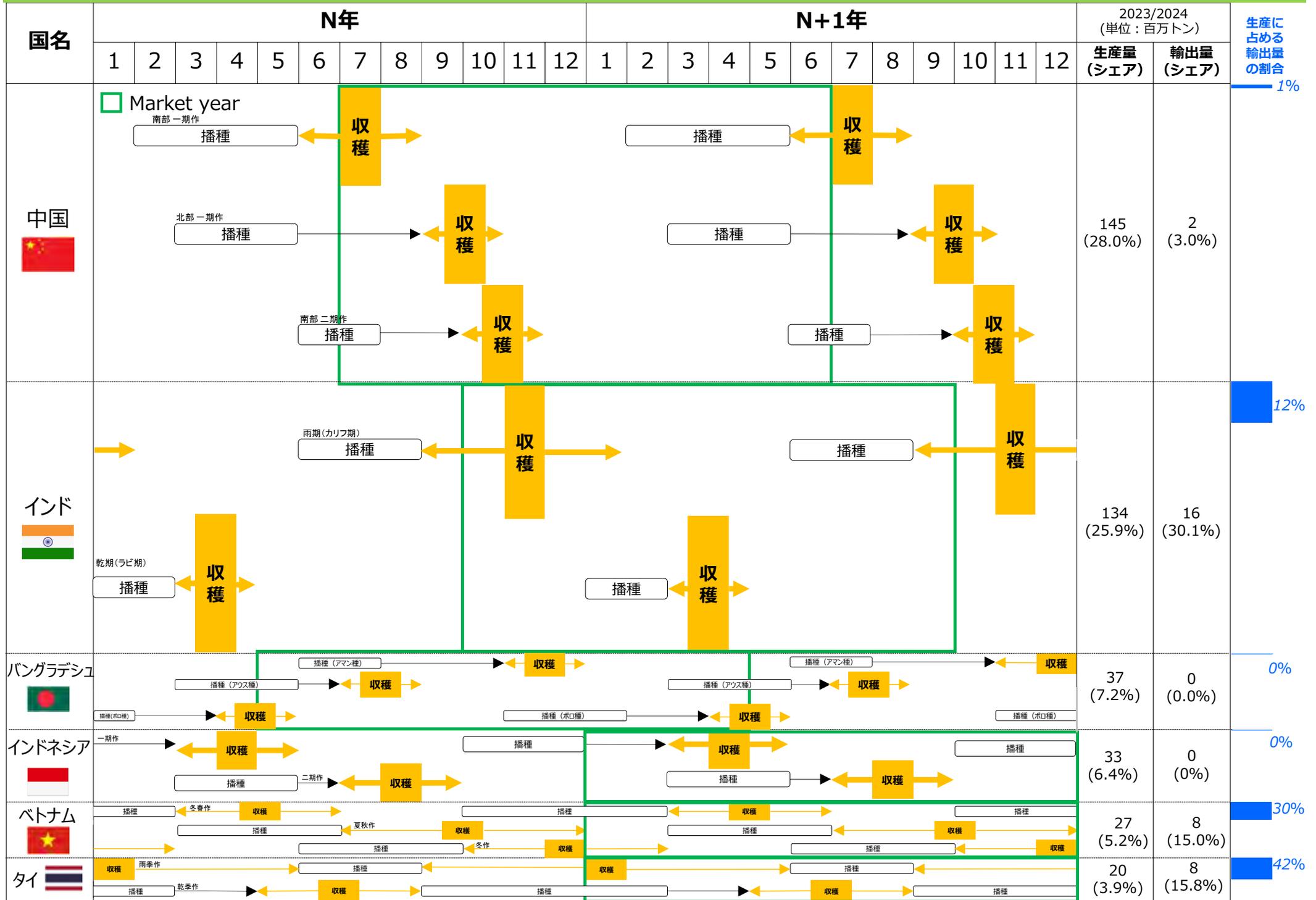
資料: AMIS [Supply and demand balances manual]、USDA [Crop Calendars]、[PS&D] (2024.5)

注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他: 179 (22.8%) 61 (28.4%)

主要生産国のクロープカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料: AMIS 「Supply and demand balances manual」、USDA 「Crop Calendar」、「PS&D」 (2024.5)

注: シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。 その他: 122 (23.5%) 19 (36.1%)

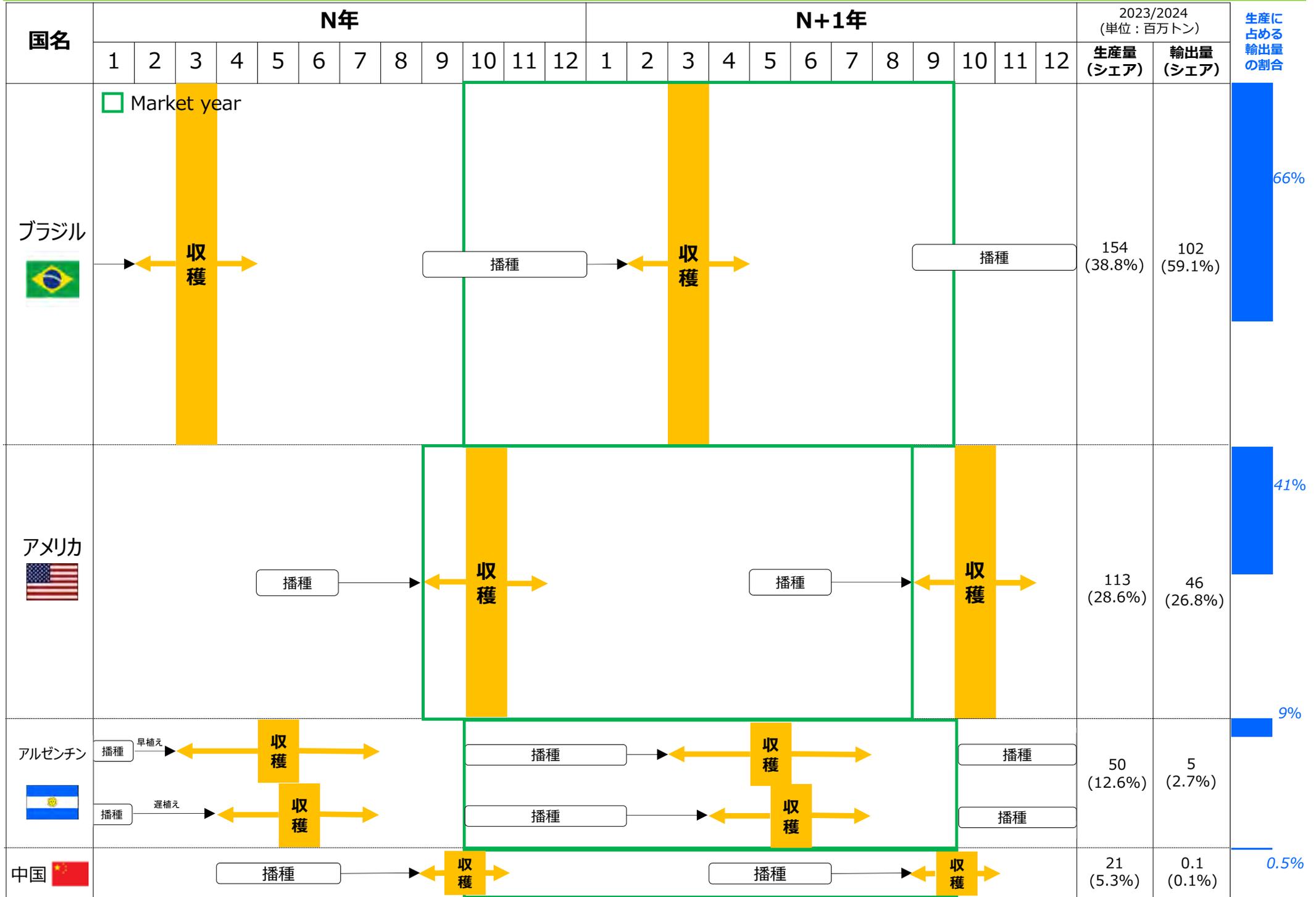
主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位:百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
アメリカ 	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> Market year </div> 播種 → 収穫												390 (31.7%)	55 (27.7%)	14%												
中国 	播種 (春作) → 収穫 播種 (夏作) → 収穫												289 (23.5%)	0 (0.0%)	0%												
ブラジル 	夏とうもろこし 播種 → 収穫 冬とうもろこし 播種 → 収穫												122 (9.9%)	50 (25.3%)	41%												
EU 	播種 → 収穫												61 (5.0%)	4 (2.1%)	7%												
アルゼンチン 	播種 → 収穫												53 (4.3%)	38 (19.3%)	72%												
インド 	乾期(ラビ期) 播種 → 収穫 雨期(カリフ期) 播種 → 収穫												38 (3.1%)	0.8 (0.4%)	2%												
資料 : AMIS 「Supply and demand balances manual」、USDA 「PS&D」 (2024.5) 注 : シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。													276 (22.5%)	50 (25.2%)	その他 :												

主要生産国のクロープカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」(2024.5)注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。その他：

59 (14.8%)
20 (11.3%)

主要生産国のクロープカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2023/2024 (単位：百万トン)		生産に 占める 輸出量 の割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
EU 	Market year						収穫	播種					収穫	播種					20 (22.6%)	0.6 (3.3%)	3%						
カナダ 						播種	収穫					播種	収穫					19 (21.3%)	7 (39.3%)	35%							
中国 	収穫						播種	収穫				播種					15 (17.4%)	0 (0%)	0%								
インド 	収穫						播種	収穫				播種					13 (14.1%)	0 (0%)	0%								
オーストラリア 						播種	収穫					播種	収穫					6 (6.4%)	5 (27.6%)	81%							
ウクライナ 	収穫		播種					播種	収穫					播種	収穫	播種					4 (5.0%)	3 (20.5%)	78%				
ロシア 						播種	収穫					播種	収穫					4 (4.8%)	0.8 (4.8%)	19%							

資料：USDA「Crop Calendar」、「PS&D」(2024.5)

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している

その他：7 (8.4%) 0.7 (4.5%)

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

(1) 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

(2) 農林水産関係機関の情報（ALICの情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

(3) その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が2025年1月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度2024/25年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

<p>連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)</p>
--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10年先）、超長期（30年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html

